

NEC Express5800シリーズ

1

導入編

本製品や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

知っておきたいこと (2ページ)

本製品の特長や添付（または別売品）のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。

導入のポイント (7ページ)

本製品をご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。

お客様登録 (12ページ)

お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひ登録してください。

セットアップ (13ページ)

本製品をお使いになれるまでに必要な手順について順を追って説明しています。

再セットアップ (52ページ)

ハードディスクドライブからオペレーティングシステムを起動できなくなった場合にハードディスクドライブの内容を出荷時の状態に戻してから再セットアップする方法について説明しています。

応用セットアップ (85ページ)

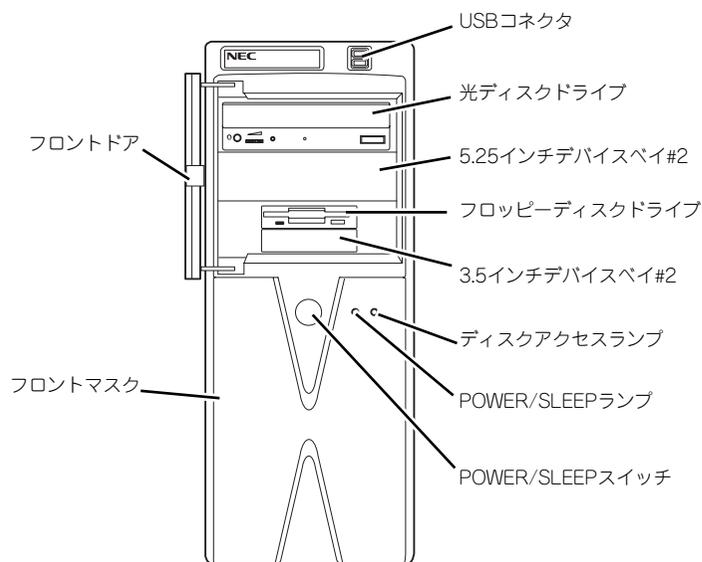
シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップの方法について説明しています。

知っておきたいこと

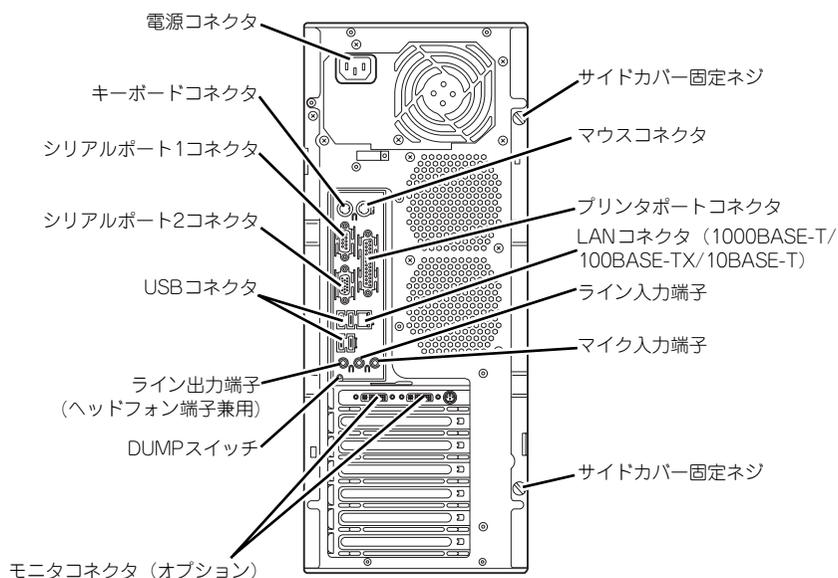
本装置について知っておいていただきたいことがらを記載しています。導入の前にご覧ください。

装置外観

導入の際に知っておいていただきたい各部の名称と場所を次に示します。増設や運用時に知っておいていただきたい各部の名称や機能については「ハードウェア編」をご覧ください。



<装置前面>



<装置背面>

特長

お買い求めになられた本製品の特長を次に示します。

高性能

- Intel® Core™ 2 DUO Processor/Intel® Core™ 2 Quad Processor搭載
- 高速1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
インタフェース (1Gbps/100Mbps/10Mbps対応)
- SATA300/SAS対応高速ディスクアクセスをサポートした
内蔵ハードディスクドライブ

高信頼性

- 温度検知
- パスワード機能
- 内蔵ファン回転監視機能
- 電圧監視機能
- RAIDシステム(ディスクアレイ) SATA
- メモリ監視機能 (1ビットエラー
訂正/2ビットエラー検出)

保守機能

- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能
- 保守ツール

豊富な機能搭載

- サウンドスピーカ内蔵
- オーディオ端子(ライン入力端子/ライン出力端子
(ヘッドフォン端子兼用)/マイク入力端子)搭載
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation
mode)フォーマットをサポート
- リモートパワーオン機能
- ACリンク機能
- SATA300/SAS(内蔵ハードディスクドライブ用)
対応
- 光ディスクドライブは購入時に選択可能な
フリーセレクションタイプ

省電力機能

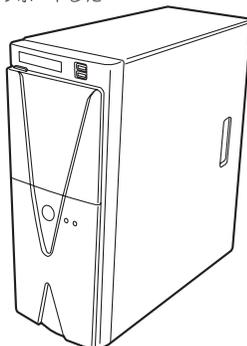
多彩なスリープ機能をサポート*1 (オプション
ボードによっては機能しないものもある)

管理機能

- ESMPRO/ServerAgent
- ESMPRO/ServerManager

自己診断機能

- Power On Self-Test (POST)
- テスト診断 (TeDoLi)



すぐに使える

BTO(工場組み込み出荷)によりあらかじめ使用するOSの
インストールやオプションの取り付けを指定できます。

便利なセットアップ ユーティリティ

- EXPRESSBUILDER (システムセットアップユーティリティ)
- ExpressPicnic (パラメータファイルの作成ユーティリティ)
- SETUP (BIOSセットアップユーティリティ)

拡張性

- PCIバス X4スロット
 - ・ PCI Express(x16) X1スロット(PCI #1)
オプションのグラフィックスアクセラレータ用
 - ・ PCI 32-bit/33MHz/5Vインターフェース X2スロット(PCI #2,#4)
 - ・ PCI Express(x16) X1スロット(PCI #3)
- 最大4GB*2のメモリ (DIMM×4スロット)
Microsoft Windows XP Professionalの場合
最大8GBのメモリ(DIMM×4スロット)
Microsoft Windows XP Professional x64 Edition/
Windows Vista Businessの場合*2
- USB2.0対応

*1 Microsoft Windows XP Professional x64 Editionを使用し、
4GB以上のメモリを実装している場合は、休止状態は使用できません。

*2 3GB程度しか認識されません。

本体管理

本製品のハードウェアコンポーネントで実現している運用管理機能/信頼性機能を提供します。また、EXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ServerAgent」により、システムの状態を統合的に管理することができます。本体の状態は、同じくEXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ServerManager」がインストールされたネットワーク上の管理コンピュータからチェックすることができます。

ESMPRO/ServerAgentをインストールした場合、データビューアの項目ごとの機能可否は下表のようになります。

機能名	可否	機能概要
ハードウェア	○	ハードウェアの物理的な情報を表示する機能です。
メモリバンク	○	メモリの物理的な情報を表示する機能です。
装置情報	○	装置固有の情報を表示する機能です。
CPU	○	CPUの物理的な情報を表示する機能です。
システム	○	CPUの論理情報参照や負荷率の監視をする機能です。メモリの論理情報参照や状態監視をする機能です。
I/Oデバイス	○	I/Oデバイス(フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポート、キーボード、マウス、ビデオ)の情報参照をする機能です。
システム環境	△	温度、ファン、電圧、電源、ドアなどを監視する機能です。
温度	○	筐体内部の温度を監視する機能です。
ファン	○	ファンを監視する機能です。
電圧	○	筐体内部の電圧を監視する機能です。
電源	X	電源ユニットを監視する機能です。
ドア	X	Chassis Intrusion (筐体のカバー/ドアの開閉)を監視する機能です。
ソフトウェア	○	サービス、ドライバ、OSの情報を参照する機能です。
ネットワーク	○	ネットワーク(LAN)に関する情報参照やパケット監視をする機能です。
拡張バスデバイス	X	拡張バスデバイスの情報を参照する機能です。
BIOS	○	BIOSの情報を参照する機能です。
ローカルポーリング	○	エージェントが取得する任意のMIB項目の値を監視する機能です。
ストレージ	○	ハードディスクドライブなどのストレージデバイスやコントローラを監視する機能です。
ファイルシステム	○	ファイルシステム構成の参照や使用率監視をする機能です。
ディスクアレイ	○	LSI社製ディスクアレイコントローラ(N8103-73A/80/81)および、Promise社製ディスクアレイコントローラを監視する機能です。 * 上記ディスクアレイコントローラをサポートしていない本体装置の場合、ディスクアレイの情報はデータビューアには表示しません。
その他	X	Watch Dog TimerによるOSストール監視をする機能です。
	X	OS STOPエラー発生後の通報処理を行う機能です。

○: サポート △: 一部サポート X: 未サポート



ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentは、本体に標準添付されています。各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ストレージ管理

大容量のストレージデバイスを管理するために次の点について留意しておきましょう。

- 内蔵のハードディスクドライブとDATなどのバックアップ装置機能を提供します。
テープ装置へのデータのバックアップはWindows XP標準のバックアップアプリケーションの他にARCserve、BackupEXEC、NetBackupなどによるバックアップも可能です。なお、バックアップ装置は別売のオプションです。
- RAIDコントローラと内蔵のハードディスクドライブによるディスク管理機能を提供します。

ハードディスクドライブの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながるといえます。オンボードまたは、オプションのRAIDコントローラを使用することにより、ハードディスクドライブをグループ化して冗長性を持たせることでデータの損失を防ぐとともにハードディスクドライブの稼働率を向上することができます。

－ オンボードのRAIDコントローラ

オンボードのRAIDコントローラによって、RAIDシステムを構築することができます。RAIDコントローラがサポートするRAIDレベルは、RAID 0、RAID 1です。RAIDシステムの構築、設定、管理には、「LSI Software RAID Configuration Utility」や、「Universal RAID Utility」を使用します。詳細は、「2 ハードウェア編 RAIDシステムのコンフィグレーション」(190ページ)、 「3 ソフトウェア編 Universal RAID Utility」(224ページ) を参照してください。

－ オプションのRAIDコントローラ

詳細は、オプションのRAIDコントローラに添付の説明書を参照してください。

RAIDシステムの設定は、セットアップツール「シームレスセットアップ」でも設定できます。より詳細な設定をする必要があるときは、それぞれのコンフィグレーションユーティリティを使用してください。

RAIDシステム管理ユーティリティはESMPRO/ServerManager やESMPRO/ServerAgentとの連携により、RAIDシステムの状況をトータルに監視し、障害の早期発見や予防措置を行い、ハードディスクドライブの障害に対して迅速に対処することができます。



Universal RAID Utility、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentは、本体に標準で添付しています。ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。



パトロールリードと整合性チェックによる予防保守

ハードディスクドライブの後発不良に対する予防保守としてパトロールリードが有効です。パトロールリードにより、後発不良を早期に発見できます。パトロールリード機能をサポートするRAIDコントローラを使用する場合は、パトロールリード機能を使用してください。パトロールリード機能をサポートしないRAIDコントローラ(オンボードのRAIDコントローラ(LSI Embedded MegaRAID))では、パトロールリードの代わりに整合性チェックを使用してください。

電源管理

商用電源のトラブルは、システムを停止させる大きな原因のひとつです。停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリーから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源ユニットの寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュールなどによる本装置の自動・無人運転を実現することもできます。

ネットワーク管理

クライアント/サーバシステムを構築した場合にネットワーク構成機器(サーバ/ワークステーション、ルータ、ハブなど)を監視し障害や過負荷状態を検出することができます。なお、ルータやハブの監視にはESMPRO/Netvisorなどの関連製品が必要です。

導入のポイント

本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

システム構築のポイント

お使いになるシステムに本製品を導入するにあたり、次の点について留意してください。

まずはじめに本体、および添付品がすべてそろっていることを確認してください（添付の構成表を参照してください）。万一、足りないものや破損しているものがあつたときはお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。また、システムを構築するために必要となる機器についても確認しましょう。

日常での運用において、本体の状態を管理・監視できるようなシステムを構築しておくことが望まれます。

添付の「EXPRESSBUILDER®」DVDには、本体、およびExpress5800シリーズ製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリケーション「ESMPRO®」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。

ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

なお、本体に障害が発生した際に、NECフィールディング（株）がアラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することもご検討ください。

システムの構築・運用にあたっての留意点

システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

出荷時の状態を確認しましょう

本製品を導入する前に、出荷時の状態を確認してください。

- **パーティション構成について**

<Windows Vistaの場合>

リカバリセットアップを実施するためには、32-bit用のWindows REパーティションが必要です。32-bit用のWindows REパーティションは購入時に作成されています。

Windows REパーティションについては、57ページを参照してください。



Windows REパーティション(約8GB)
保守用の各種ユーティリティが格納されています。
オペレーティングシステムからは、「Windows RE」の
NTFSパーティションとして認識されます。



Windows REパーティションを64-bit化している場合、Windows REパーティションがない場合はリカバリセットアップはできません。EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Vista Business インストールサプリメントガイド」を参照しマニュアルセットアップを実施してください。

<Windows XP x64 Edition/Windows XPの場合>



オペレーティングシステム用パーティション
カスタムインストールの場合は、お客様のオーダーによって異なります。

電源を入れる前に

本体をセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

① ハードウェアのセットアップ

本体を箱から取り出し、最適な場所に設置後、キーボード、マウス、ディスプレイ装置のケーブル、電源コードの順で本体背面のコネクタに接続します。



オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。ただし、メモリは取り付けることをお勧めします。

② オペレーティングシステムのセットアップ

購入された本体には、すでに次のいずれかがインストールされています。

- Microsoft Windows Vista Business 日本語版
(Microsoft Windows Vista Business 32-bit(x86) Edition)
- Microsoft Windows XP Professional x64 Edition 日本語版
- Microsoft Windows XP Professional 日本語版

そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できるようになっています。詳しい手順は14ページで説明しています。

システムを再セットアップする場合は、再セットアップ (52ページ) を参照してください。オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。ただし、メモリは取り付けることをお勧めします。

③ 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入されたメモリやハードディスクドライブなどの内蔵デバイスを取り付け、プリンタなどの周辺機器を接続します。接続する周辺機器用のデバイスドライバをインストールする場合は、周辺機器に添付の説明書を参照してインストールしてください。

④ 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるように障害処理のためのセットアップをしてください。Windows Vista / Windows XP x64 Edition / Windows XPに関しては、本書で説明しています。



NEC では、ESMPRO の他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれる Express5800 製品の状態監視用サービスを用意しています。Express5800 製品に障害が起きたときに自動的に保守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知または保守員の派遣などのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧めします。

⑤ 管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストールします（ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」DVDからインストールすることができます）。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください（インストールについては「ソフトウェア編」で説明しています）。ESMPRO/ServerManagerは本体にインストールして使用することもできます。



添付のCD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのアプリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたアプリケーションが用意されています。詳しくはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

⑥ システム情報のバックアップ

ハードウェアとソフトウェアのすべてのセットアップを完了したら、添付の「EXPRESSBUILDER」DVDのユーティリティを使用して本体装置のシステム情報のバックアップをとります。

本体装置の故障による部品交換や修理の後にバックアップしていたシステム情報をリストアップすることで故障前と同じ状態で本製品を使用することができます。

ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらかじめ確認しておくことをお勧めします（後から変更することもできます）。

ネットワークを経由して、他のシステムからの指示により本体の電源を投入（リモートパワーオン）する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューの「Advanced Chipset Control」で「Wake On LAN/PME」を「Enabled」に設定します。

UPS接続時のポイント

本体の電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、UPSから本体の電源を制御できる電源連動（AC-LINK）機能を使用することができます。

このAC-LINK機能を使用して本体の電源ON/OFFを行う場合は、BIOSセットアップユーティリティの「System Hardware」メニューの「AC-LINK」を「Power On」に設定します。また、UPSを正しく動作させるためにお使いになるUPSに合ったソフトウェアの設定が必要です。

ストレージ機能構築のポイント

- RAIDシステムを使用する場合

オンボードのRAIDコントローラを使用する場合、Universal RAID Utilityをインストールします。「ソフトウェア編」の「Universal RAID Utility」の説明に従い、Universal RAID Utilityをインストールしてください。

オプションのRAIDコントローラを使用する場合、詳細はオプションのRAIDコントローラに添付の説明書を参照してください。

RAIDシステムを構築する際は、ディスク稼働率や予防保守性を高めるためにも、論理ドライブの整合性チェックを定期的に行うことをお勧めします（オンラインドキュメント「Universal RAID Utility ユーザーズガイド」の整合性チェックに関する説明を参照してください）。

- バックアップファイルシステムを使用する場合

本装置では、別売のSCSIコントローラを搭載することによりバックアップ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。

主なバックアップツールは次のとおりです。

- － Windows XPバックアップツール
- － ARCserve（コンピュータ・アソシエイツ社）
- － BackupExec（Symantec社）
- － NetBackup（Symantec社）

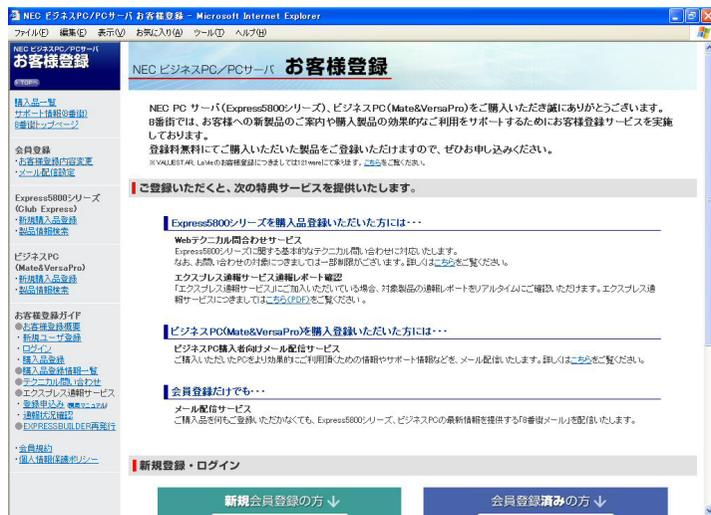
DAT装置などのテープデバイスは、ヘッドの汚れによりデータの読み書きが正常に行われず、バックアップ/リストア中にエラーが発生する場合があります。クリーニングテープにより、定期的にヘッドを清掃するように心がけてください。

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、またはClub Expressのインターネットホームページ

<http://club.express.nec.co.jp/>

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみならずには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。ぜひ、ご覧ください。

セットアップ

箱を開けてからお使いになれるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は、「再セットアップ (52ページ)」を参照してください。



本装置にWindowsのプロダクトキーが記載されたIDラベルが貼りつけられています。



プロダクトキーはOSのセットアップや再インストール時に必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう取り扱いにご注意ください。もし剥がれて紛失したり汚れて見えなくなった場合でも、ラベルの再発行はできませんので、あらかじめプロダクトキーをメモし、他の添付品と一緒にメモを保管されることをお勧めします。

1 EXPRESSBUILDERがサポートしているサービスパック

本体に添付の「EXPRESSBUILDER」DVDでは、以下のOSインストールメディア及びサービスパックの組み合わせをサポートしています。

- Windows Vista Business
 - － OSインストールメディア (Service Pack 無し)
- WindowsXP Professional x64 Edition
 - － OSインストールメディア (Service Pack 無し)
 - － OSインストールメディア (Service Pack 2 内包版)
 - － OSインストールメディア (Service Pack 無し) + Service Pack 2
- WindowsXP Professional
 - － OSインストールメディア (Service Pack 2 内包版)

2 EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード

添付の「EXPRESSBUILDER」DVDでサポートしているオプションボードは、以下になります。下記以外のオプションボードを接続するときは、オプションボードに添付の説明書と「応用セットアップ」(85ページ)を参照してセットアップしてください。

- EXPRESSBUILDERにてOSのインストールをサポートしているオプションボード
 - － N8103-103 ディスクアレイコントローラ(SATA II)
 - － LSI Embedded MegaRAID™(マザーボード上のコントローラを利用)
- その他のオプション
 - － N8103-95 SCSIコントローラ

3 ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。



重要

内蔵デバイスは、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。

1. 本体に最も適した場所に設置する (→98ページ)。
2. ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルを本体に接続する (→100ページ)。



重要

プリンタなどの周辺機器は、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。

3. 添付の電源コードを本体と電源コンセントに接続する (→103ページ)。
4. ハードウェアの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。
160ページを参照してください。



チェック

BIOSのパラメータで時刻や日付の設定と確認をしてください (本装置では使用するOSを選択するようなBIOSパラメータ値はありません。プラグ・アンド・プレイのサポート有無に関する設定は特に必要ありません)。

引き続き、オペレーティングシステムのセットアップへ進んでください。

4 オペレーティングシステムのセットアップ

電源をONにして、お使いになれる状態になるまでを順を追って説明します。

セットアップの手順

初めて電源をONにしてセットアップするときは、次の手順でシステムを起動して、セットアップを始めます。

Microsoft Windows Vistaの場合

Microsoft Windows Vistaがハードディスクドライブにインストール済みのモデルでは、次の手順に従ってセットアップをしてください。



セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを接続しないでください。

1. フロッピーディスクドライブと光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認する。
2. 本体の電源をONにする。

本体は自動的にPOSTを開始し、しばらくすると「Windowsのセットアップ」画面が表示されます。

以降、画面の指示に従って必要な設定や表示内容をよく確認し、セットアップを進めてください。

- [ライセンス条項をお読みになってください]画面では、ライセンス条項の内容を確認してください。
- [ユーザー名と画像の選択]画面では、ユーザー名やパスワードを入力し、ユーザーアカウントで使用する画像を選択します。
- [コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください]画面では、コンピュータ名を入力し、デスクトップの背景を選択します。
- [Windows を自動的に保護するよう設定してください]画面では、表示される設定内容を確認し選択します。
- [時刻と日付の設定の確認]画面では、時刻と日付を正しく設定してください。
- [お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください]画面では、表示される設定内容を確認し選択します。
- [ありがとうございます]画面で[開始]をクリックする。

3. システムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールします。ソフトウェアのセットアップについては、「ソフトウェア編」または添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent
- Universal RAID Utility
- Web-based Promise Array Manager
- エクスプレス通報サービス
- Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再頒布可能パッケージ(x86)*

* CPUアーキテクチャに関わらず、(x86)を使用します。

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ（標準装備）のセットアップ」に進んでください。

Microsoft Windows XP Professional x64 Editionの場合

Microsoft Windows XP Professional x64 Edition がハードディスクドライブにインストール済みのモデルでは、次の手順に従ってセットアップをしてください。



セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを接続しないでください。

1. フロッピーディスクドライブと光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認する。
2. 本体の電源をONにする。

本体は自動的にPOSTを開始し、しばらくすると「Windows セットアップウィザードの開始」画面が表示されます。

以降、画面の指示に従って必要な設定や表示内容をよく確認し、[次へ]をクリックしてセットアップを進めてください。

- [ライセンス契約] 画面では、ライセンス契約の内容を確認してください。
- [ソフトウェアの個人設定] 画面では、名前や組織名を入力します。
- [コンピュータ名とAdministratorのパスワード] 画面では、コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力してください。
- [日付と時刻の設定] 画面では、日付と時刻を正しく設定してください。
- [ネットワークの設定] 画面では、ネットワークの設定を選択します。
- [ワークグループまたはドメイン名] 画面では、ドメインに参加させるか選択します。

システムが再起動します。

3. 再起動後、システムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールします。ソフトウェアのセットアップについては、「ソフトウェア編」または添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

- － ESMPRO/ServerAgent
- － エクスプレス通報サービス
- － Universal RAID Utility
- － Web-based Promise Array Manager
- － Microsoft .NET Framework Version 2.0 再頒布可能パッケージ(x86)
- － Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再頒布可能パッケージ(x86)*

* CPUアーキテクチャに関わらず、(x86)を使用します。



チェック

Windows XP x64 Edition Service Pack 2 CD-ROMをインストールする場合は、EXPRESSBUILDER に格納されているオンラインドキュメント「Windows XP x64 Edition インストールサブリメントガイド」の[システムのアップデートの手順]を参照し、Service Pack 2をインストールしてください。

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ（標準装備）のセットアップ」に進んでください。



重要

本装置にインストールされているサービスパックのバージョンと、装置に添付されているサービスパックのバージョンが異なる場合があります。装置にインストールされているサービスパック以降のバージョンが添付されている場合は、装置に添付の「Windows XP x64 Edition RUR x 対応 (Service Pack x) インストール手順書」を参照してサービスパックのインストールをしてください。サービスパック情報に関しては、下記サイトより詳細情報を確認ください。

[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

Microsoft Windows XP Professionalの場合

Microsoft Windows XP Professionalがハードディスクドライブにインストール済みのモデルでは、次の手順に従ってセットアップをしてください。



重要

セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを接続しないでください。

1. フロッピーディスクドライブと光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認する。

2. 本体の電源をONにする。

本体は自動的にPOSTを開始し、しばらくすると「Microsoft Windows へようこそ」画面が表示されます。

以降、画面の指示に従って必要な設定や表示内容をよく確認し、[次へ]をクリックしてセットアップを進めてください。

- － [使用許諾契約] 画面では、使用許諾の内容を確認してください。
- － [コンピュータを保護してください] 画面では、自動更新を行うか選択します。
- － [コンピュータに名前を付けてください] 画面では、コンピュータの名前やコンピュータにわかりやすい説明をつけることができます。
- － [インターネットに接続する方法を指定してください。] 画面では、使うデバイスを選択します。
- － [高速接続のセットアップを行います] 画面では、LAN接続をセットアップしてください。
- － [Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか?] 画面では、任意でユーザー登録が可能です。
- － [このコンピュータを使うユーザーを指定してください] 画面では、このコンピュータを使う各ユーザーの名前を入力してください。

[設定が完了しました]画面が表示されます。[完了]をクリックしてください。

3. 設定完了後、自動でシステムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップについては、「ソフトウェア編」または添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

- － ESMPRO/ServerAgent
- － エクスプレス通報サービス
- － Universal RAID Utility
- － Web-based Promise Array Manager
- － Microsoft .NET Framework Version 2.0 再頒布可能パッケージ(x86)
- － Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再頒布可能パッケージ(x86)

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ（標準装備）のセットアップ」に進んでください。



本装置にインストールされているサービスパックのバージョンと、装置に添付されているサービスパックのバージョンが異なる場合があります。装置にインストールされているサービスパック以降のバージョンが添付されている場合は、装置に添付の「Windows XP RUR x 対応 (Service Pack x) インストール手順書」を参照してサービスパックのインストールをしてください。サービスパック情報に関しては、下記サイトより詳細情報を確認ください。

[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップ

オプションのデバイスドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

Microsoft Windows Vistaの場合

- **ディスクドライバ (SATA)**

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです（システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます）。

- **ディスクドライバ (SAS)**

SASハードディスクドライブモデルに標準装備のSASコントローラ用ディスクドライバは、購入時にインストール済みです。

- **ネットワークアダプタの詳細設定**

標準装備のネットワークドライバは、購入時、またはEXPRESSBUILDERから「システムのアップデート」を実行するとインストールされます。インストール後は、次の手順に従って、ドライバへ転送速度とDuplexモードの設定をしてください。

1. **[ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスを開く。**

[標準のスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワークと共有センター]→[ネットワーク接続の管理]→[ローカルエリア接続]をダブルクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

- (2) [プロパティ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカル エリア接続]アイコンを右クリックし、メニューから[プロパティ]をクリックする。

2. **[構成] をクリックする。**

[Intel(R)82566DM-2 Gigabit Network Connectionのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. **[詳細設定] タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス] をハブの設定値と同じ値に設定する。**

4. **[Intel(R)82566DM-2 Gigabit Network Connectionのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。**

以上で完了です。

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。自動的にインストールされます。



チェック

ドライバに関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソールから管理者権限 (Administrator 等) でログインして実施してください。OSのリモートデスクトップ機能によるリモートからの設定変更操作はサポートしていません。

[オプションのネットワークドライバの設定手順]

<PROSetがインストールされていない場合>

- (1) デバイスマネージャを起動する。
- (2) ネットワークアダプタの[Intel(R) PRO/1000～またはIntel(R) PRO/100～]をダブルクリックする。
- (3) [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]設定をハブの設定と同じ値に設定する。
- (4) [Intel(R) PRO/1000～またはIntel(R) PRO/100～のプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<PROSetがインストールされている場合>

- (1) デバイスマネージャを起動する。
- (2) ネットワークアダプタの[Intel(R) PRO/1000～またはIntel(R) PRO/100～]をダブルクリックする。
- (3) [リンク速度]タブをクリックし、[速度とデュプレックス(S)]設定をハブの設定と同じ値に設定する。
- (4) [Intel PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

● オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード (N8104-111/112/119/120/121) を使用する場合は、下記のインストール方法に従って、ドライバのインストールをしてください。

<Windows Vista 32-bit(x86) Editionの場合>

(N8104-111)のボード名のドライバ

[¥001¥win¥winnt¥vista¥dl3¥pro100¥win32]

(N8104-112/119/120/121)のボード名のドライバ

[¥001¥win¥winnt¥vista¥dl3¥pro1000¥win32]

<オプションボード用ネットワークドライバのインストール>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [Intel(R) PRO/1000～またはIntel(R) PRO/100～]をダブルクリックする。
ダイアログボックスが表示されます。
3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。
[ドライバソフトウェアの更新 - Intel(R) PRO/(1000または100)～]が表示されます。
4. [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索する(R)]をクリックする。

5. 検索するソフトウェアの欄に、

<Windows Vista 32-bit(x86) Editionの場合>

(N8104-111)のボード名のドライバ

[¥001¥win¥winnt¥vista¥dl3¥pro100¥win32]

(N8104-112/119/120/121)のボード名のドライバ

[¥001¥win¥winnt¥vista¥dl3¥pro1000¥win32]

と入力し、[次へ]をクリックする。

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると [ドライバソフトウェアが正常に更新されました。]画面が表示されます。

6. [閉じる]をクリックする。

7. システムを再起動する。

以上で完了です。

● PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- － アダプタ詳細情報の確認
- － ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- － Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。

オートランで起動するメニューが表示されたら、メニュー画面を閉じてください。

2. スタートメニューから[すべてのプログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

3. ディレクトリ内の「dxsetup.exe」アイコンをダブルクリックする。

<Windows Vista 32-bit(x86) Editionの場合>

[¥001¥win¥winnt¥vista¥dl3¥proset¥vista32]

[Intel(R) PRO Network Connections - InstallShield ウィザード]が起動します。

4. [次へ]をクリックする。

5. 使用許諾契約を読み、同意するならば[使用許諾契約の条項に同意します]を選択して[次へ]をクリックする。

6. セットアップオプションの画面が表示されますので、デフォルトのまま[次へ]をクリックする。

7. 再度、使用許諾契約を読み、同意するならば[使用許諾契約の条項に同意します]を選択して[次へ]をクリックする。

8. [インストール]をクリックする。

9. [InstallShield ウィザードを完了しました] ウィンドウが表示されたら、[完了]をクリックする。
10. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブから取り出し、システムを再起動する。

以上で完了です。

● AFT/ALBのセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグループを作り、サーバから送受信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。AFT/ALB機能を使用する場合は以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
6. [完了]をクリックする。
7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。

「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。

8. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、アダプタを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、アダプタを選択し、「セカンダリの設定(S)」をクリックしてください。

両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。

設定が適用されているかの確認は以下の手順を実施してください。

論理アダプタのプロパティを開き、[設定]タブを選択し[チーム内のアダプタ]の各アダプタにプライマリ又はセカンダリが表示されているので、表示されていることを確認する。

9. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。



- AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
- アダプタフォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用可能ですが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一LAN(同一ネットワーク)上に存在する必要がありますので、カスケード接続にしてください。
- アダプティブロードバランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。
- マザーボードまたはオプションのネットワークカードを交換する場合は、必ずチームを削除し、交換後にチームを再作成してください。

- **SCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合**

SCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

- **グラフィックスアクセラレータドライバ (ディスプレイドライバ)**

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は本体またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク (CD-ROM) を使用してドライバをインストールしてください。

- **サウンドドライバ**

標準装備のサウンドドライバは、購入時にインストール済みです (システムの修復や再セットアップの際は、EXPRESSBUILDERから「システムのアップデート」を実行しドライバをインストールしてください)。

- **USB2.0ドライバ**

USB2.0ドライバは、購入時にインストール済みです (システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

Microsoft Windows XP Professional x64 Editionの場合

- **ディスクドライバ (SATA)**

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです (システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

- **ディスクドライバ (SAS)**

SASハードディスクドライブモデルに標準装備のSASコントローラ用ディスクドライバは、購入時にインストール済みです。

● ネットワークアダプタの詳細設定

標準装備のネットワークドライバは、購入時、またはEXPRESSBUILDERから「システムのアップデート」を実行するとインストールされます。インストール後は、次の手順に従って、ドライバへ転送速度とDuplexモードの設定をしてください。

1. [ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続]をクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

- (2) [プロパティ] をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカル エリア接続]アイコンを右クリックし、メニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成] をクリックする。

[Intel(R)82566DM-2 Gigabit Network Connectionのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細設定] タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス] をハブの設定値と同じ値に設定する。

4. [Intel(R)82566DM-2 Gigabit Network Connectionのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。自動的にインストールされます。



チェック

ドライバおよびPROSetに関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソールから管理者権限（Administrator等）でログインして実施してください。OSのリモートデスクトップ機能によるリモートからの設定変更操作はサポートしていません。

[オプションのネットワークドライバの設定手順]

<PROSetがインストールされていない場合>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. ネットワークアダプタの[Intel(R) PRO/1000～またはIntel(R) PRO/100～]をダブルクリックする。
3. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]設定をハブの設定と同じ値に設定する。
4. [Intel(R) PRO/1000 ～またはIntel(R) PRO/100 ～ のプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<PROSetがインストールされている場合>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. ネットワークアダプタの[Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~]をダブルクリックする。
3. [リンク速度]タブをクリックし、[速度とデュプレックス(S)]設定をハブの設定と同じ値に設定する。
4. [Intel PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。

[ネットワーク接続] からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

● オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード（N8104-111/112/119/120/121）を使用する場合は、下記のインストール方法に従って、ドライバのインストールをしてください。

[N8104-111]のボード名のドライバ

[¥001¥win¥winnt¥xpamd64¥dl3¥pro100¥winx64]

[N8104-112/119/120/121]のボード名のドライバ

[¥001¥win¥winnt¥xpamd64¥dl3¥pro1000¥winx64]

<オプションボード用ネットワークドライバのインストール>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [イーサネットコントローラ]をダブルクリックする。
ダイアログボックスが表示されます。
3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。
[ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。
4. [いいえ、今回は接続しません]を選択して、[次へ]をクリックする。
5. [一覧または特定の場所からインストールする（詳細）]を選択し、[次へ]をクリックする。
6. [次の場所で最適なドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、以下のどちらかを入力し[次へ]をクリックする。

[N8104-111]のボード名のドライバ

[¥001¥win¥winnt¥xpamd64¥dl3¥pro100¥winx64]

[N8104-112/119/120/121]のボード名のドライバ

[¥001¥win¥winnt¥xpamd64¥dl3¥pro1000¥winx64]

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。

7. [完了]をクリックする。

以上で完了です。

- PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。
オートランで起動するメニューが表示されたら、メニュー画面を閉じてください。
2. スタートメニューから [すべてのプログラム]、[アクセサリ] の順にポイントし、[エクスプローラ] をクリックする。
3. 「¥001¥win¥winnt¥xpamd64¥dl3¥proset¥winx64」ディレクトリ内の「dxsetup.exe」アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PRO Network Connections - InstallShield ウィザード]が起動します。
4. [次へ] をクリックする。
5. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。
6. セットアップオプションの画面が表示されるので、デフォルトのまま[次へ]をクリックする。
7. 再度、使用許諾契約を読み、同意するならば[使用許諾契約の条項に同意します]を選択して[次へ]をクリックする。
8. [インストール]をクリックする。
9. [InstallShieldウィザードを完了しました]というメッセージが表示されたら、[完了]をクリックする。
10. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブから取り出し、システムを再起動する。

以上で完了です。

● AFT/ALBのセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグループを作り、サーバから送受信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。AFT/ALB機能を使用する場合は以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
6. 「完了」のボタンをクリックする。
7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。

「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックしてください。

8. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、アダプタを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、アダプタを選択し、「セカンダリの設定(S)」をクリックしてください。

両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。

設定が適用されているかの確認は以下の手順を実施してください。

論理アダプタのプロパティを開き、[設定]タブを選択し[チーム内のアダプタ]の各アダプタにプライマリ又はセカンダリが表示されているので、表示されていることを確認する。

9. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。



- AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
- アダプタフォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用可能ですが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一LAN(同一ネットワーク)上に存在する必要がありますので、カスケード接続にしてください。
- アダプティブロードバランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。
- マザーボードまたはオプションのネットワークカードを交換する場合は、必ずチームを削除し、交換後にチームを再作成してください。

- **SCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合**

SCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

- **グラフィックスアクセラレータドライバ (ディスプレイドライバ)**

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は本体またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク (CD-ROM) を使用してドライバをインストールしてください。

- **サウンドドライバ**

標準装備のサウンドドライバは、購入時にインストール済みです (システムの修復や再セットアップの際は、EXPRESSBUILDERから「システムのアップデート」を実行しドライバをインストールしてください)。



システムのアップデート時にポップアップメニュー (ハードウェアの更新ウィザード) が出ることがありますが数秒で消えるので何も操作しないで下さい。もし操作してしまった場合でもキャンセルを選択してください。「キャンセル」/「次へ(N)」をクリックしてしまいサウンドドライバが適用されない場合は、再度システムのアップデートを実行してください。

- **USB2.0ドライバ**

USB2.0ドライバは、購入時にインストール済みです (システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

Microsoft Windows XP Professional の場合

- **ディスクドライバ (SATA)**

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです (システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

- **ディスクドライバ (SAS)**

SASハードディスクドライブモデルに標準装備のSASコントローラ用ディスクドライバは、購入時にインストール済みです。

- **ネットワークアダプタの詳細設定**

標準装備のネットワークドライバは、購入時、またはEXPRESSBUILDERから「システムのアップデート」を実行するとインストールされます。インストール後は、次の手順に従って、ドライバへ転送速度とDuplexモードの設定をしてください。

1. [ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続]をクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

- (2) [プロパティ]をクリックする。

【クラシックスタートメニューモードの手順】

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、メニューから[プロパティ]をクリックする。

2. 【構成】をクリックする。

[Intel(R)82566DM-2 Gigabit Network Connectionのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. 【詳細設定】タブをクリックし、【リンク速度とデュプレックス】をハブの設定値と同じ値に設定する。

4. [Intel(R)82566DM-2 Gigabit Network Connectionのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。自動的にインストールされます。



チェック

ドライバおよびPROSetに関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソールから管理者権限 (Administrator等) でログインして実施してください。OSのリモートデスクトップ機能によるリモートからの設定変更操作はサポートしていません。

【オプションのネットワークドライバの設定手順】

<PROSetがインストールされていない場合>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. ネットワークアダプタの[Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~]をダブルクリックする。
3. 【詳細設定】タブをクリックし、【リンク速度とデュプレックス】設定をハブの設定と同じ値に設定する。
4. [Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~ のプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<PROSetがインストールされている場合>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. ネットワークアダプタの[Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~]をダブルクリックする。
3. 【リンク速度】タブをクリックし、【速度とデュプレックス(S)】設定をハブの設定と同じ値に設定する。
4. [Intel PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。

[ネットワーク接続] からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

- オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード（N8104-111/112/119/120/121）を使用する場合は、下記のインストール方法に従って、ドライバのインストールをしてください。

[N8104-111]のボード名のドライバ

[¥001¥win¥winnt¥xp¥dl3¥pro100¥win32]

[N8104-112/119/120/121]のボード名のドライバ

[¥001¥win¥winnt¥xp¥dl3¥pro1000¥win32]

<オプションボード用ネットワークドライバのインストール>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [イーサネットコントローラ]ダブルクリックする。
ダイアログボックスが表示されます。
3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。
[ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。
4. [いいえ、今回は接続しません]を選択して、[次へ]をクリックする。
5. [一覧または特定の場所からインストールする（詳細）]を選択し、
[次へ]をクリックする。
6. [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、以下のどちらかを入力し[次へ]をクリックする。

[N8104-111]のボード名のドライバ

[¥001¥win¥winnt¥xp¥dl3¥pro100¥win32]

[N8104-112/119/120/121]のボード名のドライバ

[¥001¥win¥winnt¥xp¥dl3¥pro1000¥win32]

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると
[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。

7. [完了]をクリックする。

以上で完了です。

- PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、サーバに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする場合は、次の手順に従ってください。

1. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。

オートランで起動するメニューが表示されたら、メニュー画面を閉じてください。

2. スタートメニューから [すべてのプログラム]、[アクセサリ] の順にポイントし、[エクスプローラ] をクリックする。
3. 「¥001¥win¥winnt¥xp¥dl3¥proset¥win32」ディレクトリ内の「dxsetup.exe」アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PRO Network Connections - InstallShield ウィザード]が起動します。
4. [次へ] をクリックする。
5. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。
6. セットアップオプションの画面が表示されるので、デフォルトのまま[次へ]をクリックする。
7. 再度、使用許諾契約を読み、同意するならば[使用許諾契約の条項に同意します]を選択して[次へ]をクリックする。
8. [インストール]をクリックする。
9. [InstallShieldウィザードを完了しました]というメッセージが表示されたら、[完了]をクリックする。
10. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブから取り出し、システムを再起動する。

以上で完了です。

● AFT/ALBのセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグループを作り、サーバから送受信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。AFT/ALB機能を使用する場合は以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
6. 「完了」のボタンをクリックする。
7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックしてください。

8. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、アダプタを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、アダプタを選択し、「セカンダリの設定(S)」をクリックしてください。

両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。

設定が適用されているかの確認は以下の手順を実施してください。

論理アダプタのプロパティを開き、[設定]タブを選択し[チーム内のアダプタ]の各アダプタにプライマリ又はセカンダリが表示されているので、表示されていることを確認する。

9. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。



- AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
- アダプタフォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用可能ですが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一LAN(同一ネットワーク)上に存在する必要がありますので、カスケード接続にしてください。
- アダプティブロードバランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。
- マザーボードまたはオプションのネットワークカードを交換する場合は、必ずチームを削除し、交換後にチームを再作成してください。

● SCSIコントローラ(N8103-95)のドライバ

SCSIコントローラ(N8103-95)を使用する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされますが、その後、ドライバのアップデートが必要です。EXPRESSBUILDERから「システムのアップデート」を実施する事でドライバが適用されます。

● グラフィックスアクセラレータドライバ (ディスプレイドライバ)

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は本体またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク (CD-ROM) を使用してドライバをインストールしてください。

● サウンドドライバ

標準装備のサウンドドライバは、購入時にインストール済みです (システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。



システムのアップデート時にポップアップメニュー (ハードウェアの更新ウィザード) が出ることがありますが数秒で消えるので何も操作しないで下さい。もし操作してしまった場合でもキャンセルを選択してください。「キャンセル」/「次へ(N)」をクリックしてしまいサウンドドライバが適用されない場合は、再度システムのアップデートを実行してください。

- USB2.0ドライバ

USB2.0ドライバは、購入時にインストール済みです（システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます）。

システムのアップデート（サービスパックの適用）

システムは、購入時に自動的に最新の状態にアップデートされますが、次のような場合には必ずアップデートし直してください。

- システム構成を変更した場合（内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合）
- システムを修復した場合
- バックアップツールを使用してシステムをリストアした場合

（サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスク（またはCD-ROM）を使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。）



Windows XP Professional の場合ではServicePack なし/1/1a は、サポートしていません。ServicePack2以上を使用する必要があります。ServicePack 2が含まれたWindows XP CD-ROMを使用しインストールをされた場合は、再度ServicePack 2を適用する必要はありません。

アップデート手順

詳細なアップデート手順は、EXPRESSBUILDERに格納されている各OSのインストール手順サブプリメントガイドを参照してください。

5 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入したオプションの内蔵デバイスを取り付けてください。取り付け手順については、ハードウェア編の「内蔵オプションの取り付け」を参照してください。
デバイスドライバ等のインストール手順については、オプションに添付の説明書などを参照してください。



ここで取り付けたデバイスのモデル名やタイプ、取り付け位置をメモしておいてください。オペレーティングシステムを再インストールする場合は、購入時の標準的なハードウェア構成に戻してから作業を始める必要があります。購入時のセットアップを完了した後に取り付けたデバイスは、取り外さなければなりません。

別売のネットワークケーブルで本装置をネットワークに接続してください。キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外の外付けデバイスがある場合は、それらのデバイスも併せて接続してください。

本体のコネクタ位置についてはハードウェア編の「各部の名称と機能」を参照してください。

6 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。



Windows XPでの説明では、表示方法が以下のように設定されている時の手順を記載しています。

- [タスクバーと [スタート] メニューのプロパティ] の [[スタート]メニュー] タブで [[スタート] メニュー] が選択されている。
- フォルダーオプションで、[フォルダに共通の作業を表示する] が選択されている。

メモリダンプ (デバッグ情報) の設定

本体内のメモリダンプ (デバッグ情報) を採取するための設定です。次の手順に従って設定します。



メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

Windows Vista の場合

1. スタートメニューから [コントロールパネル] をクリックする。
[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル]ウィンドウから[システムとメンテナンス]をクリックする。



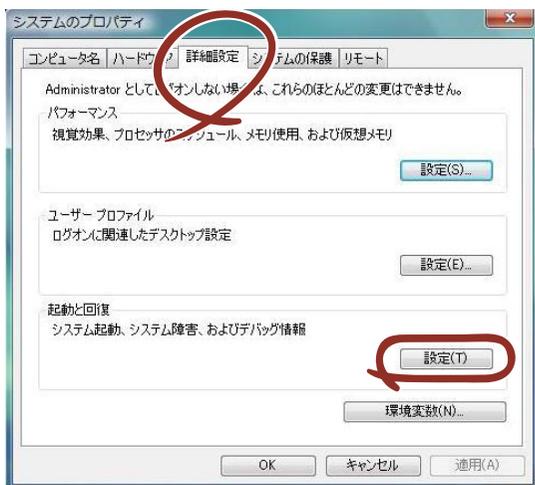
クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル] から直接 [システム] をクリックしてください。

3. [システム] をクリックする。
[システムのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

4. [システムの詳細設定]をクリックする。



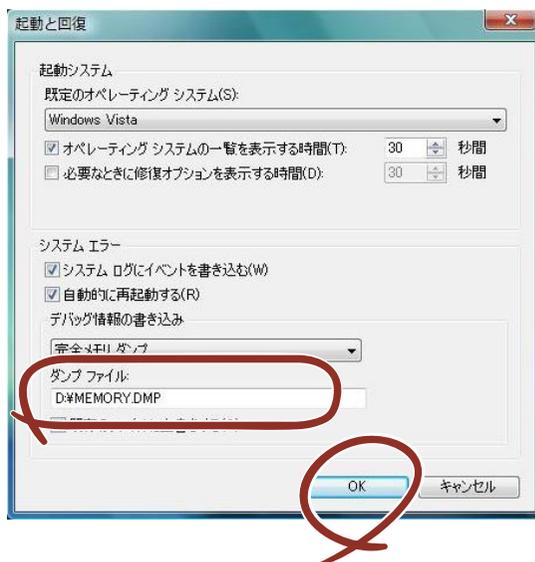
5. [起動と回復] ボックスの [設定] をクリックする。



6. ダンプファイルのテキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK] をクリックする。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP



重要

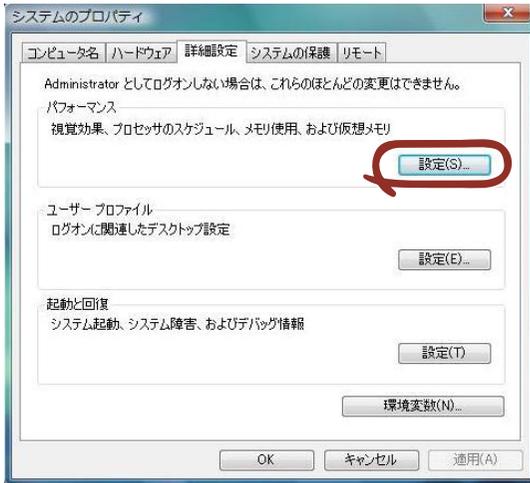
Windows Vista 64-bit(x64) Editionの場合

- デバッグ情報の書き込みは [完全メモリダンプ] を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ] を指定することはできません（メニューに表示されません）。その場合は、[カーネルメモリダンプ] を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+300MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報（メモリダンプ）のサイズが変わります。デバッグ情報（メモリダンプ）の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

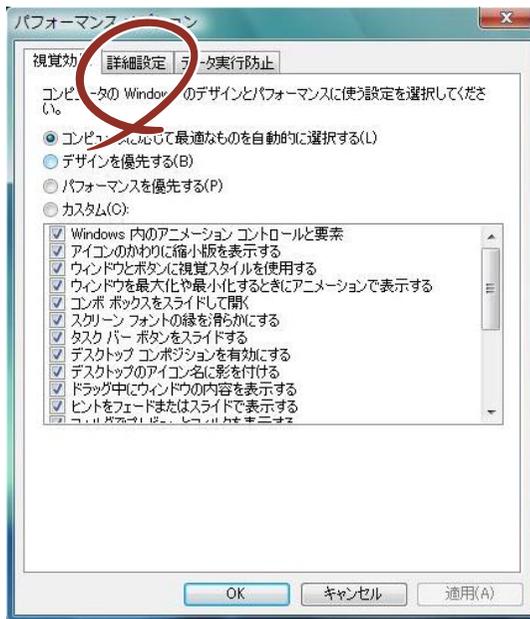
Windows Vista 32-bit(x86) Editionの場合

- デバッグ情報の書き込みは [完全メモリダンプ] を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ] を指定することはできません（メニューに表示されません）。その場合は、[カーネルメモリダンプ] を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+300MB以上（メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+300MB以上）の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報（メモリダンプ）のサイズが変わります。デバッグ情報（メモリダンプ）の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

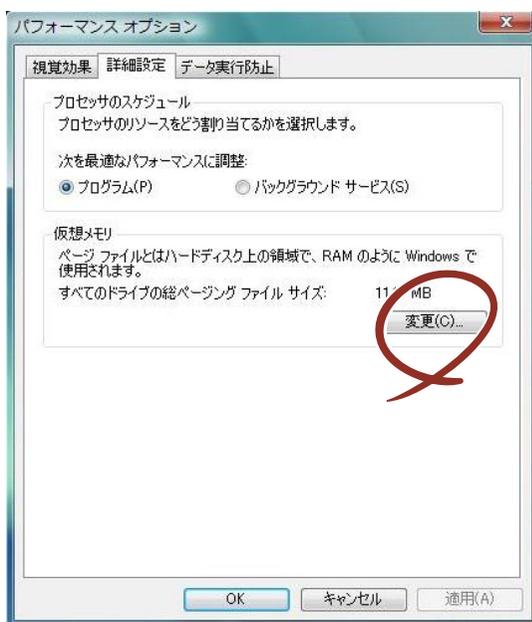
7. [パフォーマンス] ボックスの [設定] をクリックする。
[パフォーマンスオプション] ウィンドウが表示されます。



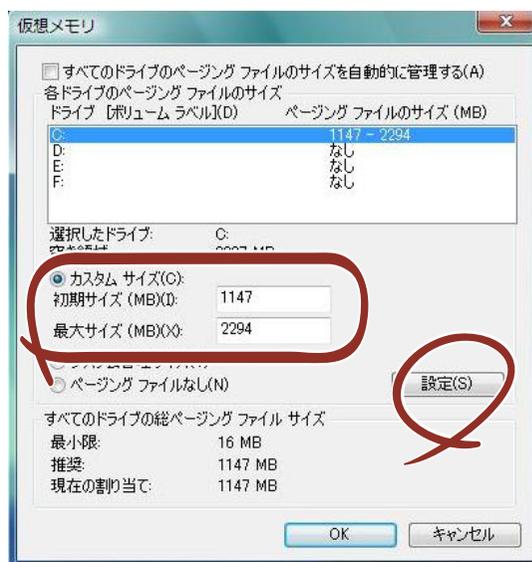
8. [パフォーマンスオプション] ウィンドウの [詳細設定] タブをクリックする。



9. [仮想メモリ] ボックスの [変更] をクリックする。



10. [各ドライブのページングファイルのサイズ] ボックスの [初期サイズ] を[すべてのドライブの総ページングファイルサイズ]ボックスに記載されている推奨値以上に変更し、[設定] をクリックする。





- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、インストールサブリメントガイドの「注意事項」の「システムパーティションのサイズについて」の項を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

11. [OK] をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

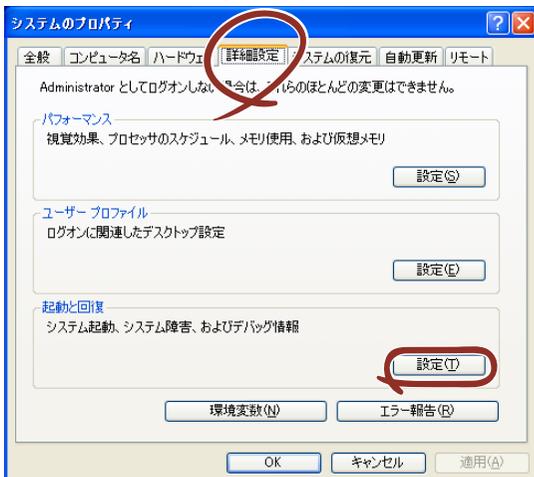
Windows XP の場合

1. スタートメニューから [コントロールパネル] をクリックする。
[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル] ウィンドウから [パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする。



クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル] から直接 [システム] をクリックしてください。

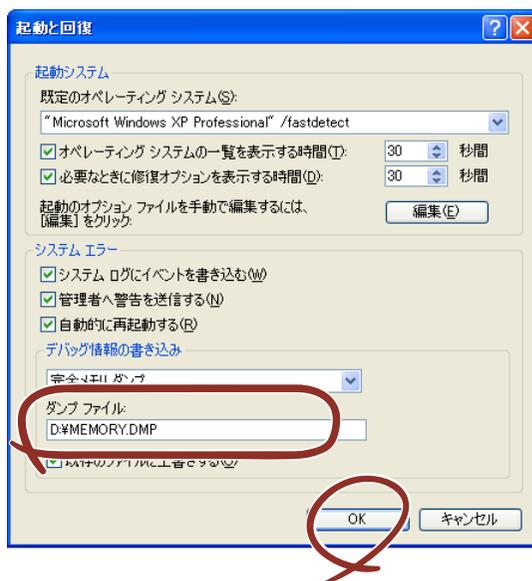
3. [システム] をクリックする。
[システムのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
4. [詳細設定] タブをクリックする。
5. [起動と回復] ボックスの [設定] をクリックする。



6. ダンプファイルのテキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK] をクリックする。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:\MEMORY.DMP



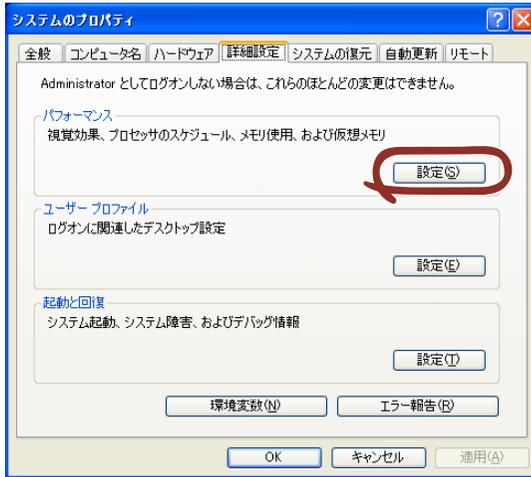
Windows XP Professional x64 Editionの場合

- デバッグ情報の書き込みは [完全メモリダンプ] を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ] を指定することはできません（メニューに表示されません）。その場合は、[カーネルメモリダンプ] を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+1MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報（メモリダンプ）のサイズが変わります。デバッグ情報（メモリダンプ）の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

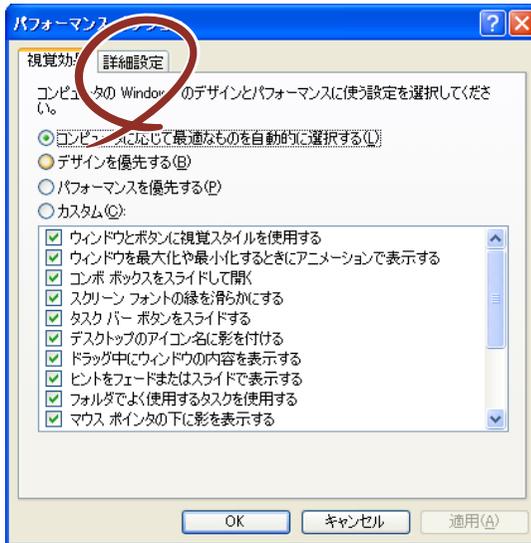
Windows XP Professionalの場合

- デバッグ情報の書き込みは [完全メモリダンプ] を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ] を指定することはできません（メニューに表示されません）。その場合は、[カーネルメモリダンプ] を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上（メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上）の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを [カーネルメモリダンプ] に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報（メモリダンプ）のサイズが変わります。デバッグ情報（メモリダンプ）の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

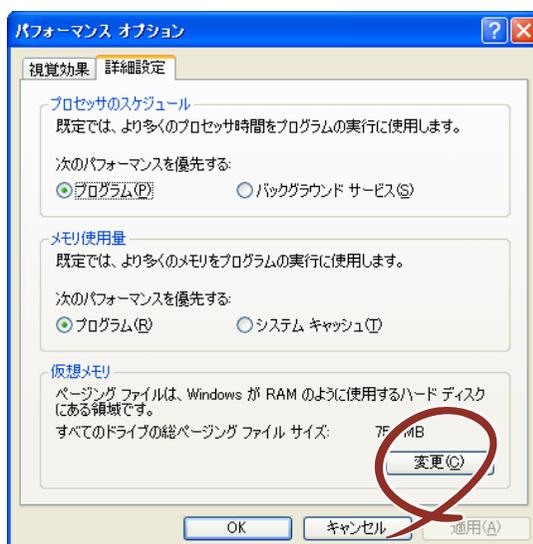
7. [パフォーマンス] ボックスの [設定] をクリックする。
[パフォーマンスオプション] ウィンドウが表示されます。



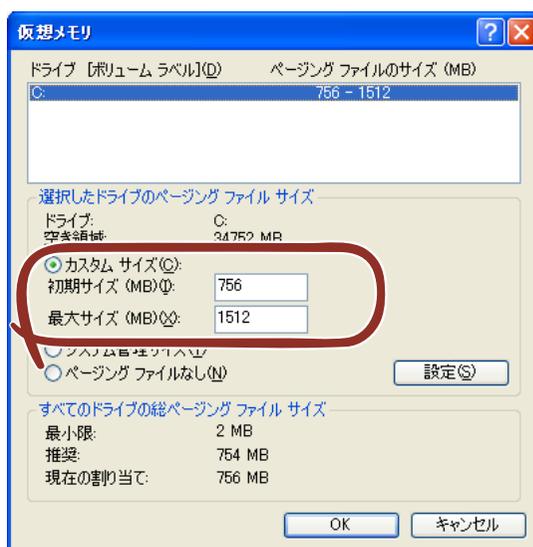
8. [パフォーマンスオプション] ウィンドウの [詳細設定] タブをクリックする。



9. [仮想メモリ] ボックスの [変更] をクリックする。



10. [選択したドライブのページングファイルサイズ] ボックスの [初期サイズ] を[すべてのドライブの総ページングファイルサイズ]ボックスに記載されている推奨値以上に変更し、[設定] をクリックする。



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、インストールサプリメントガイドの「注意事項」の「システムパーティションのサイズについて」の項を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

11. [OK] をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ユーザーモードプロセスダンプの取得方法

- Windows Vista Businessの場合

ユーザーモードプロセスダンプは、アプリケーションエラー発生時の情報を記録したファイルです。

アプリケーションエラーが発生した際は、エラーが発生した旨を伝えるポップアップを終了させずに、以下の方法にてユーザーモードプロセスダンプを取得してください。

1. タスクバー上の空いている場所を右クリックして [タスク マネージャ] をクリックするか、<Ctrl> + <Shift> + <Esc> キーを押下して [タスク マネージャ] を起動する。
2. [プロセス] タブをクリックする。
3. ダンプを取得するプロセス名を右クリックし、[ダンプ ファイルの作成] をクリックする。
4. 次のフォルダにダンプファイルが作成されます。

C:\¥Users¥(ユーザー名)\¥AppData¥Local¥Temp

ユーザーモードプロセスダンプが作成されたら、上記4.のフォルダより取得してください。

ユーザーモードプロセスダンプの取得方法の詳細は、以下のMicrosoft社のサポート技術情報を参照してください。

「Windows Vistaでユーザーモード プロセス ダンプを取得する方法」

<http://support.microsoft.com/kb/931673/ja>



Windows Vista Business では、ワトソン博士は [問題のレポートと解決策] に変更されており、従来のワトソン博士によるクラッシュダンプファイルを取得することができません。クラッシュダンプファイルと同等レベルの情報は、上記の方法で取得できます。

- Windows XP Professional の場合 (ワトソン博士の設定)

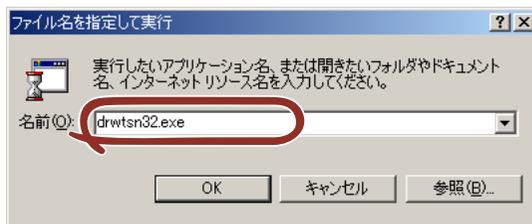
ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報 (ログ) を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。



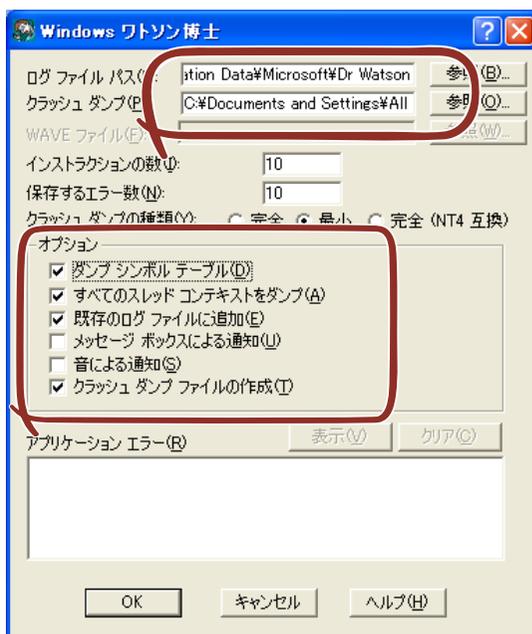
ワトソン博士の設定は、購入時および再セットアップ時に自動的に設定されています。

1. スタートメニューの [ファイル名を指定して実行] をクリックする。

2. [名前] ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK] をクリックする。
ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス] ボックスに診断情報の保存先を指定する。
「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



チェック

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ] ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション] ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。
 - － ダンプシンボルテーブル
 - － すべてのスレッドコンテキストをダンプ
 - － 既存のログファイルに追加
 - － クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK] をクリックする。

7 管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」DVDには、本体監視用の「ESMPRO/ServerAgent」および本体管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらのユーティリティは、「EXPRESSBUILDER」DVDからインストールすることができます。

詳細については、第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。



再セットアップを行ったときは、これらのユーティリティを個別にインストールしてください。



ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

8 システム情報のバックアップ

セットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 「EXPRESSBUILDER」DVDを本体装置の光ディスクドライブにセットして、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して「Boot Selectionメニュー」が表示されます。
3. [Maintenance Tools]を選択する。
4. [TOOL MENU] の[Maintenance Utility]を選択する。
5. [システム情報の管理] から [退避] を選択する。

以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

9 リカバリファイルの退避

本製品では、購入時の状態に戻したリシステムを修復する環境としてWinRE (Windows Recovery Environment) パーティションをハードディスクに用意しています。運用中にハードディスクが故障すると、WinRE パーティションが修復できなくなりますので、必ず「リカバリファイルの退避」を実施してください。

リカバリファイルの退避手順

リカバリファイルの退避手順は2通りあります。

- － バックアップDVD-ROM を使用する場合
- － WinRE パーティションを使用する場合



- リカバリファイルの退避先には、4GB 以上の空き領域が必要になります。作業を始める前に、退避用のパーティションを作成するなどして、リカバリファイルの退避先を準備してください。
- リカバリファイルはDVD メディアに保管します。DVD のブランクメディアを用意してください。

[バックアップDVD-ROMを使用する場合]

1. 本体の電源をONにする。
2. バックアップDVD-ROMを光ディスクドライブにセットする。



本体標準のRAIDコントローラ (LSI Embedded MegaRAID™) + SATA 接続の光ディスクドライブを使用する場合は、あらかじめ「OEM-Disk」を作成しフロッピーディスクドライブにセットしてください (「OEM-Disk」については「Microsoft Windows Vista Businessインストールサブリメントガイド」を参照し作成してください)。

3. バックアップDVD-ROMをセットしたら、リセットする (<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す) か、電源をOFF/ONして本体を再起動する。
4. 画面上部に「Press any key to boot from CD or DVD...」が表示されたら、<Enter>キーを押す。
5. [Windowsのインストール]画面が表示されたら、<Shift>キー+<F10>キーを押す。
6. 次のコマンドラインを実行する。

```
x:¥sources¥recovery¥recenv (.exe)
```

<本体標準装備のRAIDコントローラ (LSI Embedded MegaRAID™)+SATA接続の光ディスクドライブを使用している>

: 手順 13 へ

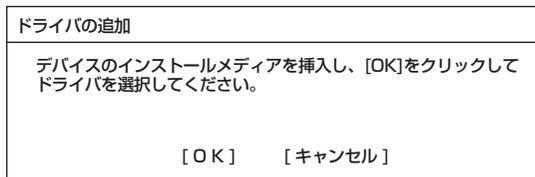
<本体の起動用ハードディスクドライブをRAIDコントローラに、接続している場合>

: 手順 7 へ

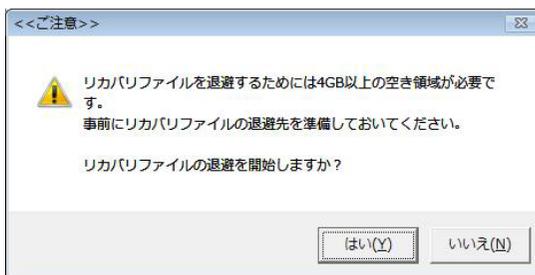
<本体の起動用ハードディスクドライブをRAIDコントローラに、接続していない場合>

: 手順13へ

7. [システム回復オプション]画面で、キーボードレイアウトの項目が日本語になっていることを確認し[次へ]をクリックする。
8. [システム回復オプション]画面で、[ドライブの読み込み]をクリックする。
9. 次のメッセージが表示されるので、バックアップDVD-ROMまたはWindows Vista DVD-ROMを光ディスクドライブから取り出す。
光ディスクドライブに EXPRESSBUILDER DVDをセットし[OK]をクリックする。



10. [ファイルを開く]画面で、[ファイルの場所]で参照先を指定する。
 - N8103-103の場合
¥001¥win¥winnt¥oemfd¥vista¥fd1¥st8350
 - LSI Embedded MegaRAID™の場合
¥001¥win¥winnt¥oemfd¥vista¥fd1¥megasr
11. 必要なドライブを選択し、[開く]をクリックする。
 - N8103-103の場合 : 「st8350」
 - LSI Embedded MegaRAID™の場合 : 「megasr」
12. [ドライブの追加]画面が表示されたら、[ドライブの追加]をクリックする。
13. [システム回復オプション]画面で[次へ]を選択する。
14. [システム回復オプションメニュー]画面から「リカバリセットアップメニュー」を選択する。
15. [リカバリセットアップメニュー]画面から「リカバリファイルの退避」を選択し、[次へ]をクリックする。
16. 次のメッセージが表示されるので[はい]をクリックする。



17. リカバリファイルの退避先を選択する。



- リカバリファイルを格納するためには、4GB以上の空き領域が必要になります。
- 「X」および「R」ドライブは指定できません。
- リカバリファイル名は変更できません。
- 退避先フォルダ名に「半角スペース」は含めないでください。

18. 次のメッセージが表示されるので[OK]をクリックする。



19. システム回復オプションメニューから[再起動]を選択し再起動する。

20. Windows Vistaにログオンする。

21. ライティングソフトを使用して、退避したリカバリファイル（winre.wim, recover.win）をDVDメディアに保存する。

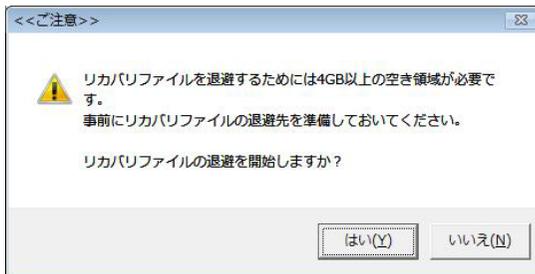
[WinREパーティションを使用する場合]

1. 本体の電源をONにする。
2. NECのロゴマークが表示されたら、<F8>キーを押す。
3. [詳細ブートオプション]画面から[コンピュータの修復]を選択する。
4. [システム回復オプション]画面で[次へ]を選択する。
5. アカウント名とパスワードを入力して[次へ]を選択する。



Windows Vistaをセットアップする際に設定したアカウント名とパスワードを入力してください。購入時の状態では、アカウント名は「Administrator」に設定されています。パスワードは設定されていません。

6. [システム回復オプションメニュー]画面から「リカバリセットアップメニュー」を選択する。
7. [リカバリセットアップメニュー]画面から「リカバリファイルの退避」を選択し、[次へ]をクリックする。
8. 次のメッセージが表示されるので[はい]をクリックする。



9. リカバリファイルの退避先を選択する。



- リカバリファイルを格納するためには、4GB以上の空き領域が必要になります。
- 「X」および「R」ドライブは指定できません。
- リカバリファイル名は変更できません。
- 退避先フォルダ名に「半角スペース」は含めないでください。

10. 次のメッセージが表示されるので[OK]をクリックする。



11. システム回復オプションメニューから[再起動]を選択し再起動する。
12. Windows Vistaにログオンする。
13. ライティングソフトを使用して、退避したリカバリファイル（winre.wim, recover.win）をDVDメディアに保存する。

リカバリファイルについて

次の場合にWinREパーティションの構築が必要になります。
WinREパーティションを構築する際にリカバリファイルを使用しますので、大切に保管してください。

- － 運用中のハードディスクが故障した場合
- － ハードディスクをフォーマットした場合
- － ハードディスクをダイナミックディスクからベーシックディスクにした場合 など

再セットアップ

ここでは、各OSを再セットアップする方法について説明します。

再セットアップ可能なOSについて

再セットアップできるオペレーティングシステムは、それまで使用していたオペレーティングシステムです。前回と異なるオペレーティングシステムをインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入してください。



Windows Vista 32-bit (x86) Edition と Windows Vista 64-bit(x64) Edition はライセンスが共通のため、Windows Vista 64-bit(x64) Edition から Windows Vista 32-bit (x86) Edition に変更する場合、もしくは Windows Vista 32-bit (x86) Edition から Windows Vista 64-bit(x64) Edition に変更する場合は別途オペレーティングシステムを購入する必要はありません。

再セットアップ方法

<Windows Vista 64-bit(x64) Editionの場合>

- マニュアルセットアップ

Windows Vista 64-bit(x64) Edition の再セットアップは「マニュアルセットアップ」を使用します。マニュアルセットアップの詳細は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Vista Businessインストールソリューションサブリメントガイド」で説明しています。

<Windows Vista 32-bit (x86) Editionの場合>

- シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」を使用すると、RAIDの設定から、WinREパーティションの構築、オペレーティングシステム（Windows Vista 32-bit (x86) Edition）、各種ユーティリティのインストールまでを切れ目なく（シームレスで）セットアップできます。購入時の状態と異なるパーティション構成でOSを再インストールすることもできます。「シームレスセットアップ」の詳細は、60ページで説明しています。



「シームレスセットアップ」を使用すると、既存のWinREのパーティションの内容はクリアされるため、「リカバリセットアップ」が使用できなくなります。「リカバリセットアップ」を行う場合は「シームレスセットアップ」を使用しないでください。

- リカバリセットアップ

「リカバリセットアップ」を使用すると、購入時の状態に戻すことができます。購入時の状態と異なるパーティション構成でOSを再インストールすることもできます。「リカバリセットアップ」の詳細は、53ページで説明しています。

- **マニュアルセットアップ**

Windows Vista 32-bit (x86) Editionの再セットアップは「マニュアルセットアップ」でも可能です。マニュアルセットアップの詳細は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Vista Businessインストールソリューションサブリメントガイド」で説明しています。

<Windows XP Professional x64 Editionの場合>

- **マニュアルセットアップ**

Windows XP x64 Editionの再セットアップは「マニュアルセットアップ」を使用します。マニュアルセットアップの詳細は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professional x64 Editionインストールソリューションサブリメントガイド」で説明しています。

<Windows XPの場合>

- **シームレスセットアップ**

「シームレスセットアップ」を使用すると、RAIDの設定から、オペレーティングシステム（Windows XP）、各種ユーティリティのインストールまでを切れ目なく（シームレスで）セットアップできます。購入時の状態と異なるパーティション構成でOSを再インストールすることもできます。「シームレスセットアップ」の詳細は、60ページで説明しています。

- **マニュアルセットアップ**

Windows XPの再セットアップは「マニュアルセットアップ」でも可能です。マニュアルセットアップの詳細は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professionalインストールソリューションサブリメントガイド」で説明しています。

リカバリセットアップ

「リカバリセットアップ」を使用すると、購入時の状態に戻すことができます。また、購入時の状態と異なるパーティション構成でOSを再インストールすることもできます。

注意事項

「リカバリセットアップ」をはじめる前に、ここで説明する注意事項をよくお読みください。

Windows ファミリについて

リカバリセットアップでインストール可能なエディションは、Microsoft® Windows Vista® Business日本語版（以降、「Windows Vista」と呼ぶ）です。その他のOSのセットアップ方法については52ページを参照してください。

BIOSの設定について

Windows Vistaをインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。BIOSの設定については160ページを参照してください。

MOの接続について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されない場合があります。ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

DAT等のメディアについて

セットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

ハードディスクドライブの接続について

OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。

システムパーティションのサイズについて

システムをインストールするパーティションサイズは、計算式から求めることができます。詳細は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Vista Businessインストールサブリメントガイド」の「注意事項」にある「システムパーティションのサイズについて」項を参照してください。

ダイナミックディスクへの再セットアップについて

- ダイナミックディスクに直接Windows Vistaを再セットアップすることはできません。必ずベーシックディスクに戻して再セットアップを行ってください。また、このときの再セットアップでは、リカバリセットアップは使用できません。マニュアルセットアップを実施してください。
- ダイナミックディスクをベーシックディスクに戻すと、既存のパーティションはすべて削除されます。必要なデータはあらかじめバックアップしてください。また、WinREパーティションも削除されますので、必ず事前にリカバリファイルを退避してください。

ダイナミックディスクをベーシックディスクに戻すには、次の手順を実行してください。



チェック

この作業は、ハードディスクの容量によって、時間がかかります。

1. 本体の電源をONにする。
2. バックアップDVD-ROMを光ディスクドライブにセットする。



チェック

本体標準のRAIDコントローラ(LSI Embedded MegaRAID™) + SATA接続の光ディスクドライブを使用する場合は、あらかじめ「OEM-Disk」を作成しフロッピーディスクドライブにセットしてください。「OEM-Disk」については「Microsoft Windows Vista Businessインストールサブリメントガイド」を参照し作成してください。

3. バックアップDVD-ROMをセットしたら、リセットする
(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONして本体を再起動する。
4. 画面上部に「Press any key to boot from CD or DVD...」が表示されたら、<Enter>キーを押す。
5. [Windowsのインストール]画面が表示されたら、<Shift>キー+<F10>キーを押す。

コマンドプロンプトが起動します。

<本体標準装備のRAIDコントローラ (LSI Embedded MegaRAID™)+SATA接続の光ディスクドライブを使用している>

: 手順 15 へ

<本体の起動用ハードディスクドライブをRAIDコントローラに、接続している場合>

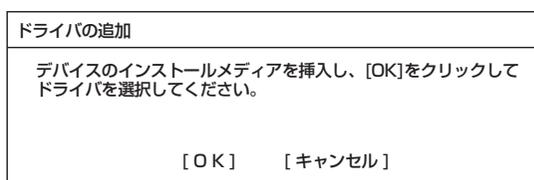
: 手順 6 へ

<本体の起動用ハードディスクドライブをRAIDコントローラに、接続していない場合>

: 手順 15 へ

6. 次のコマンドラインを実行する。
x:¥sources¥recovery¥recenv (.exe)
7. [システム回復オプション]画面で、キーボードレイアウトの項目が日本語になっていることを確認し[次へ]をクリックする。
8. [システム回復オプション]画面で、[ドライバの読み込み]をクリックする。
9. 次のメッセージが表示されるので、バックアップDVD-ROMまたはWindows Vista DVD-ROMを光ディスクドライブから取り出す。

光ディスクドライブに EXPRESSBUILDER DVDをセットし[OK]をクリックする。



10. [ファイルを開く]画面で、[ファイルの場所]で参照先を指定する。
 - N8103-103の場合
¥001¥win¥winnt¥oemfd¥vista¥fd1¥st8350
 - LSI Embedded MegaRAID™の場合
¥001¥win¥winnt¥oemfd¥vista¥fd1¥megasr
11. 必要なドライバを選択し、[開く]をクリックする。
 - N8103-103の場合 : 「st8350」
 - LSI Embedded MegaRAID™の場合 : 「megasr」
12. [ドライバの追加]画面が表示されたら、[ドライバの追加]をクリックする。
13. [システム回復オプション]画面が表示されたら、[次へ]をクリックする。
14. [システム回復オプションメニュー]画面から、[コマンドプロンプト]をクリックする。

15. 次のコマンドラインを実行する。

```
diskpart
```

Diskpart ユーティリティが起動します。

16. 次のコマンドラインを実行する。

```
list disk
```

使用可能なハードディスク一覧が表示されます。この時、対象となるハードディスクの番号を確認してください。

17. 次のコマンドラインを実行する。

```
sel disk number
```



*number*には、手順16.で確認したハードディスクの番号を入力してください。

18. 次のコマンドラインを実行する。

```
det disk
```

指定したハードディスク上のパーティション一覧が表示されます。指定したディスクが正しく選択されていることを確認してください。

19. 次のコマンドラインを実行する。

```
clean all
```

ディスク上のすべてのパーティションとすべてのデータが完全に削除されます。

20. 終了メッセージが表示されたら、次のコマンドラインを実行する。

```
exit
```

Diskpartユーティリティを終了します。

21. 次のコマンドラインを実行する。

```
Wpeutil Reboot
```

再起動します。

バックアップについて

「バックアップと復元センター」の「コンピュータ全体の復元」を実施する場合、次の組み合わせでは使用できません。システムとバックアップのディスクタイプが異なる場合は、バックアップDVD から起動し、システム回復オプションメニューから「Windows Complete PC 復元」を選択してください。

システム	バックアップ
ベーシックディスク	ダイナミックディスク
ダイナミックディスク	ベーシックディスク

Windows REパーティションについて

リカバリセットアップを実施するためには、32-bit用のWindows REパーティションが必要です。32-bit用のWindows REパーティションは購入時に作成されています。



Windows REパーティションを64-bit化している場合、Windows REパーティションがない場合はリカバリセットアップはできません。EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Vista Business インストールサブリメントガイド」を参照しマニュアルセットアップを実施してください。

リカバリセットアップの手順

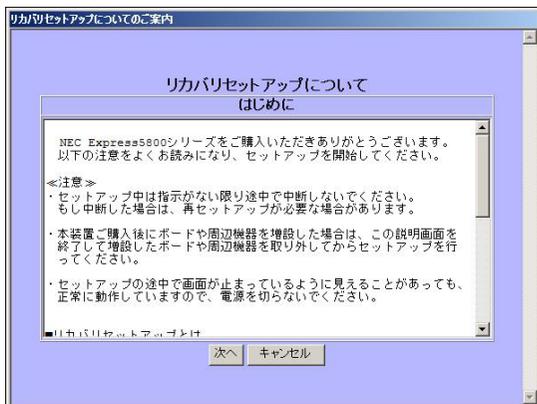
1. 本体の電源をONにする。
2. NECのロゴマークが表示されたら、<F8>キーを押す。
3. [詳細ブートオプション]画面から[コンピュータの修復]を選択する。
4. [システム回復オプション]画面で[次へ]を選択する。
5. アカウント名とパスワードを入力して[次へ]を選択する。



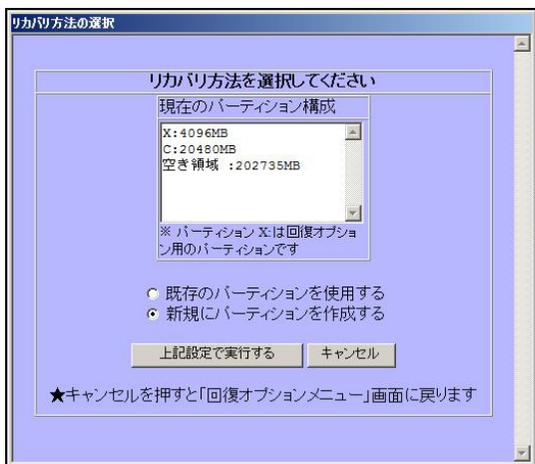
Windows Vistaをセットアップする際に設定したアカウント名とパスワードを入力してください。購入時の状態では、アカウント名は「Administrator」に設定されています。パスワードは設定されていません。

6. [システム回復オプションメニュー]画面から「リカバリセットアップメニュー」を選択する。
7. [リカバリセットアップメニュー]画面から「リカバリセットアップ」を選択し、[次へ]を選択する。

8. [リカバリセットアップについてのご案内]画面が表示されたら注意事項を熟読後、[次へ]をクリックする。



9. [リカバリ方法の選択]画面でシステムパーティションを新規に作成するか、既存のものを使用するかを選択する。



「既存のパーティションを使用する」場合は、手順11.へ

「新規にパーティションを作成する」場合は、手順10.へ



「新規にパーティションを作成する」を選択するとパーティションは全て削除されます。「既存のパーティションを使用する」を選択するとCドライブのみ初期化されます。



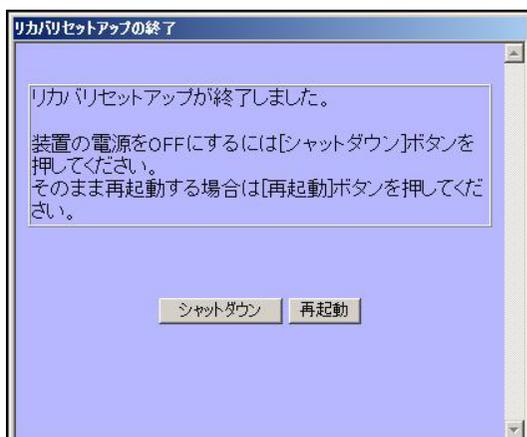
購入時の状態からパーティションサイズを変更したい場合は「新規にパーティションを作成する」を選択してください。

パーティションサイズを変更しない場合は「既存のパーティションを使用する」を選択してください。

10. [新規パーティションの作成]画面が表示されたら、システムパーティションのサイズを入力し、[上記設定で実行する]をクリックする。



11. [リカバリセットアップの終了]画面が表示されたら、[シャットダウン]または[再起動]を選択し終了する。



シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってセットアップします。

本機能は、本体に接続されたRAIDコントローラを自動認識してRAIDシステムを構築しますので、あらかじめ、ハードウェア/BIOSなどの設定を完了させておいてください。



チェック

シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップについては、85ページの「応用セットアップ」で説明しています。



ヒント

- シームレスセットアップでは、あらかじめ作成したパラメータファイルを使用したり、セットアップ中に設定したパラメータをパラメータファイルとしてフロッピーディスク（別途1.44MBフォーマット済み空きフロッピーディスクをお客様でご用意ください）に保存することができます。
- パラメータファイルは、EXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic[®]」を使って事前に作成しておくことができます。ExpressPicnicを使ったパラメータファイルの作成方法については、211ページを参照してください。



重要

シームレスセットアップでは、設定によってはハードディスクの内容を削除します。入力するパラメータにご注意ください。特に、以下の設定時には注意が必要です。

- Step4 「RAIDの設定」
- Step5 「メディアとパーティションの設定」

必要に応じユーザーデータのバックアップを取ることを推奨します。

セットアップの前の確認事項について

シームレスセットアップを始める前に、ここで説明する注意事項について確認しておいてください。

Windowsファミリについて

Windows ファミリのうち、シームレスセットアップでインストール可能なエディションは次のとおりです。

- Microsoft® Windows Vista® Business 日本語版
(以降、「Windows Vista (Windows Vista 32-bit(x86) Edition)」と呼ぶ)
- Microsoft® Windows® XP Professional 日本語版
(以降、「Windows XP」と呼ぶ)

その他のOSをインストールするときは、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。



Windows Vista 64-bit(x64) Editionや、Windows XP x64 Editionでは、シームレスセットアップを使用できません。再セットアップする場合は、各OSのインストールレーションサブリメントガイドを参照し、「マニュアルセットアップ」を使用してください。

BIOSの設定について

Windows XPをインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。BIOSの設定には、Windows 2000から採用された新しい機能（USBインタフェースへの対応など）に関する設定項目があります。160ページを参照して設定してください。

本装置では使用するOSを選択するようなBIOSパラメータ値はありません。プラグ・アンド・プレイのサポート有無に関する設定は特に必要ありません。

注意すべきハードウェア構成について

シームレスセットアップでインストールするとき、次のようなハードウェア構成においては特殊な手順が必要となります。

● ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理] を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は [コンピュータの管理] 内の [ディスクの管理] から行えます。

● MO装置の接続について

Windows Vista 32-bit(x86) Editionや Windows XPをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

- **DAT等のメディアについて**

シームレスセットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

- **ハードディスクドライブの接続について**

OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。

- **ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブへの再インストールについて**

ダイナミックディスクへアップグレードした場合、既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。この場合、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されている各OSのインストールレーションサプリメントガイドを参照して再インストールしてください。

システムパーティションのサイズについて

システムをインストールするパーティションサイズは、次の計算式から求めることができます。

[Windows Vista 32-bit(x86) Edition の場合]

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ + ハイパネーション用サイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ = 6200MB

ページングファイルサイズ (推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5

ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 300MB

ハイパネーション用サイズ = 搭載メモリサイズ

アプリケーションサイズ = 任意



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報 (ダンプファイル) 採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は「2048MB+300MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

$6200\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 300\text{MB} + 512\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ} = 8292\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを

増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

1. 「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」を設定する。
2. 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報（ダンプファイルサイズ分）を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

[Windows XP Professionalの場合]

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ + ハイバネーション用サイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ = 2700MB
 ページングファイルサイズ（推奨）= 搭載メモリサイズ × 1.5
 ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB
 ハイバネーション用サイズ = 搭載メモリサイズ
 アプリケーションサイズ = 任意



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は「2048MB+12MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

$$2700\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 12\text{MB} + 512\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ} = 4504\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

1. 「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」を設定する。
2. 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報（ダンプファイルサイズ分）を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

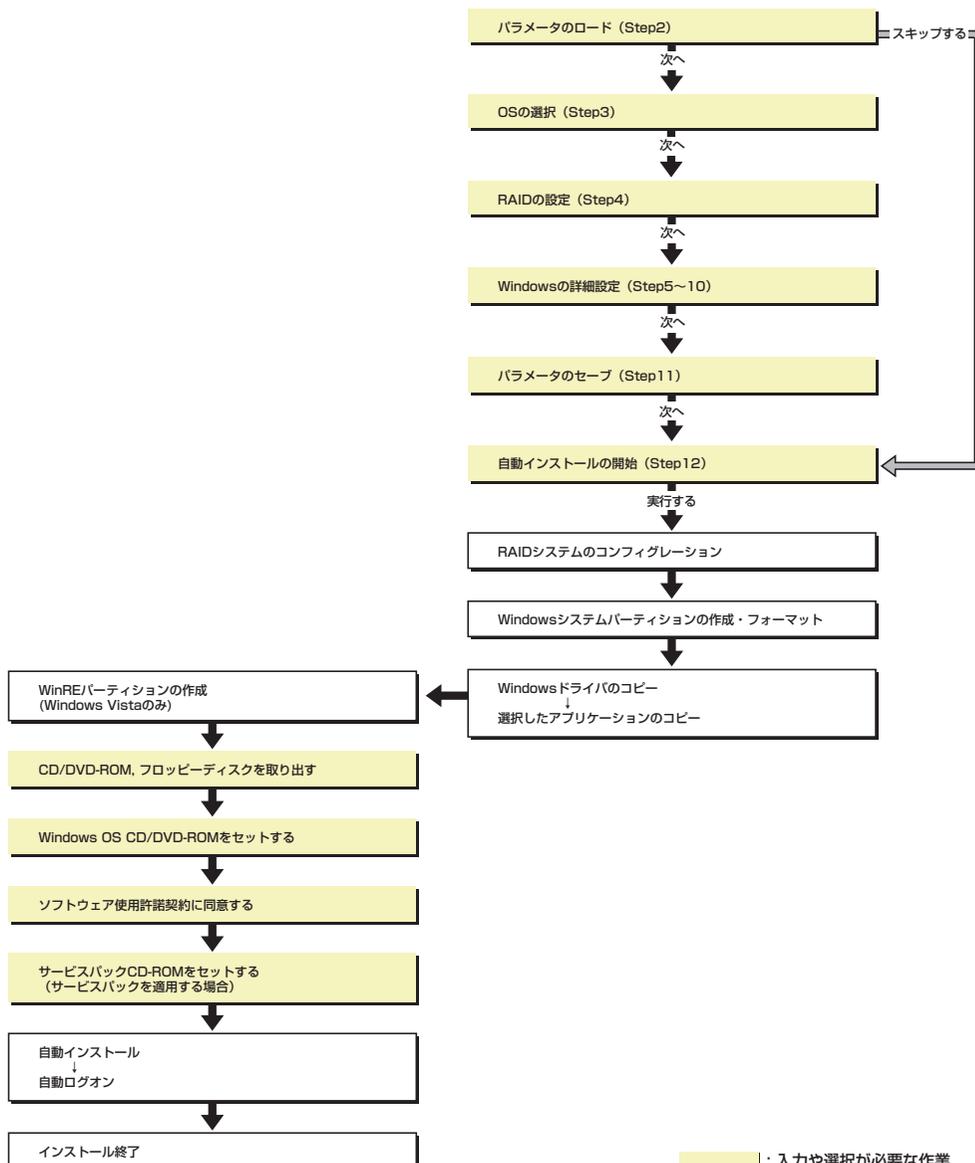
サービスパックの適用について

- Windows XP Professionalをご利用の場合、インストールに使用するOSインストールメディアについては、必ず『Service Pack 2が内包されたメディア』をご使用ください。再度Service Pack 2を適用する必要はありません。
- Service Pack 2が内包されたOSインストールメディアを使用しインストールされた場合は、再度Service Pack 2を適用する必要はありません。
- 本装置に添付されているサービスパック以降のサービスパックを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

セットアップの流れ

シームレスセットアップの流れを図に示します。



: 入力や選択が必要な作業
 : 自動的に作業が進む内容

セットアップの手順

シームレスセットアップでは、ウィザード形式により各パラメータを設定していきます。このとき、各パラメータを一つのファイル(パラメータファイル)としてフロッピーディスクへ保存することも可能です。



チェック

パラメータファイルを使ってセットアップするときは、ファイル保存用として1.44MBフォーマット済みの空きフロッピーディスクが1枚必要となります。あらかじめ、お客様でフロッピーディスクをご用意ください。

再インストールのときは、保存しておいたパラメータファイルを読み込ませることで、ウィザードによるパラメータ入力を省略することができます。



重要

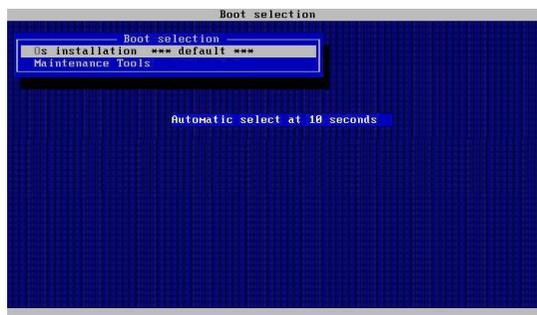
- 事前に「注意すべきハードウェア構成について (61ページ)」を確認してください。
- Windowsの起動後にネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメント「Windows Vistaインストールサブリメントガイド」または「Windows XP Professionalインストールサブリメントガイド」を参照してください。

Windows Vista 32-bit(x86) Edition の場合

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。
2. 本装置の光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」DVDをセットする。
3. DVD-ROMをセットしたら、リセットする (<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す) か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。

DVD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

以下のメッセージが表示されたら、「OS installation *** default ***」を選択してください (何もキー入力がない場合でも、自動的に手順4の画面へ進みます)。



4. [シームレスセットアップを実行する]を選択し、[次へ]をクリックする。



5. パラメータをロードする。

[パラメータのロード]画面が表示されます。



[パラメータファイルを使用しない場合]

[パラメータをロードしない]を選択して、[次へ]をクリックする。



フロッピーディスクドライブが本体に接続されていない場合、こちらを選択してください。

[パラメータファイルを使用する場合]

[パラメータをロードする]を選択し、パラメータファイルのパスをボックスへ入力する。この後、各ウィザードにてファイルからロードされたパラメータを確認する場合は[次へ]を、確認しないでそのままインストールする場合は[スキップする]をクリックする。



パラメータファイルのパスおよびファイル名に日本語は使用しないでください。

[次へ]をクリック→手順6へ

[スキップする]をクリック→手順15へ

6. インストールするOSを選択する。

[Windows(32bitエディション)をインストールする]を選択して、[次へ]をクリックしてください。



7. RAIDの設定をする。

[RAIDの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



論理ドライブの作成には同型番の物理ディスクしか使用できません。



8. メディアとパーティションの設定をする。

[メディアとパーティションの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。

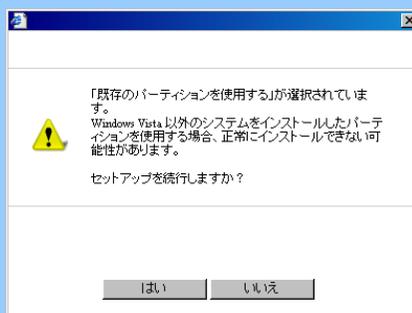


重要

- **パーティションサイズについて**
 - OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズを指定してください (62ページ参照)。
 - 接続されているハードディスク以上の容量は指定しないでください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「新規に作成する」を選択したとき、ディスクの内容はすべてクリアされますのでご注意ください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション
削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません (62ページ参照)。「Windows システムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、以下のメッセージが表示されます。Windows Vista 以外で作成したパーティションは流用できませんので新規に作成しなおしてください。



9. 基本情報の設定をする。

[基本情報の設定]画面が表示されます。ユーザー情報を入力して[次へ]をクリックしてください。



ヒント

- 「Administratorパスワード」および「Administratorパスワードの確認」に値を設定していない場合でも「??????」が表示されます。
- 日本語入力する場合は、<Alt>+<半角/全角>キーを押してください。

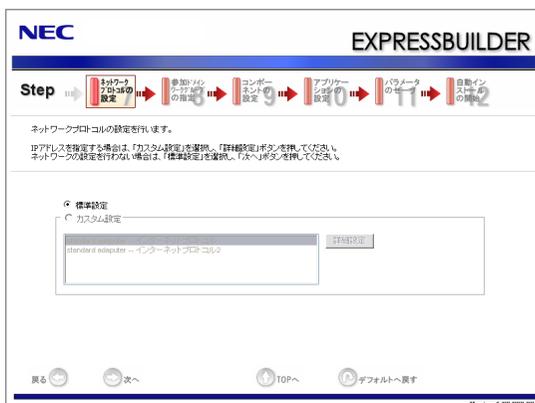
10. ネットワークプロトコルの設定をする。

[ネットワークプロトコルの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



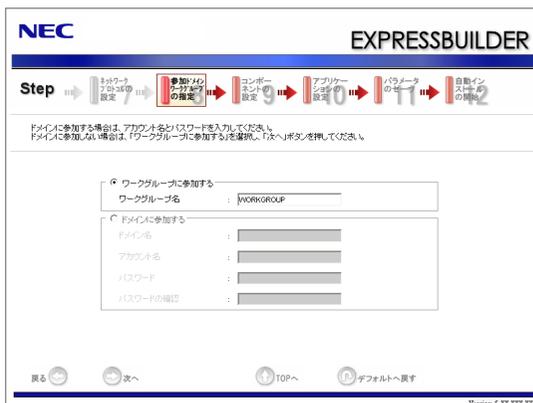
ヒント

カスタム設定での登録順は、LANポートの番号と一致しない場合があります。



11. 参加するワークグループを指定する。

[参加ドメイン・ワークグループの指定]画面が表示されます。
設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



チェック

Windows Vistaではドメインの指定をおこなっても反映されません。セットアップ完了後にウェルカムセンターから設定してください。

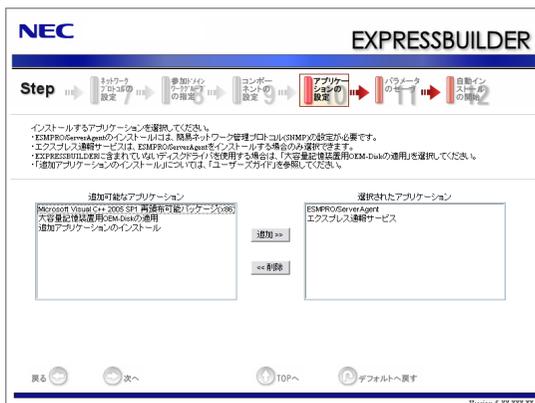
12. コンポーネントの設定をする。

[コンポーネントの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



13. アプリケーションの設定をする。

[アプリケーションの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なアプリケーションを選択して[次へ]をクリックしてください。



14. パラメータをセーブする。

[パラメータのセーブ]画面が表示されます。



[パラメータファイルを保存しない場合]

「パラメータをセーブしない」を選択して、[次へ]をクリックする。



フロッピーディスクドライブが本体に接続されていない場合、こちらを選択してください。

[パラメータファイルを保存する場合]

「パラメータをセーブする」を選択し、フォーマット済みフロッピーディスクをセットした後、ファイル名をボックスへ入力し、[次へ]をクリックする。



パラメータファイルのパスおよびファイル名に日本語は使用しないでください。



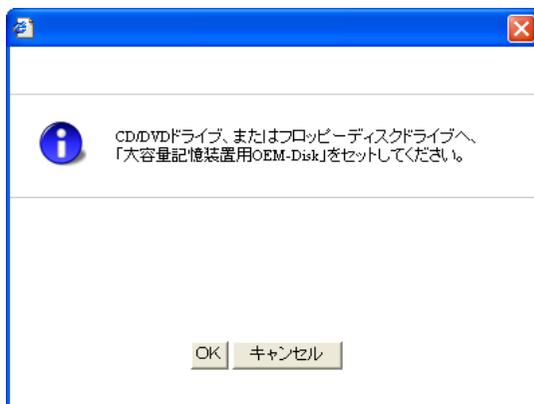
ここで作成したパラメータファイルは、再インストールのときに使用することができます。また、パラメータファイルは「ExpressPicnic」からも作成することができます。

15. 自動インストールの開始画面で[実行する]をクリックする。



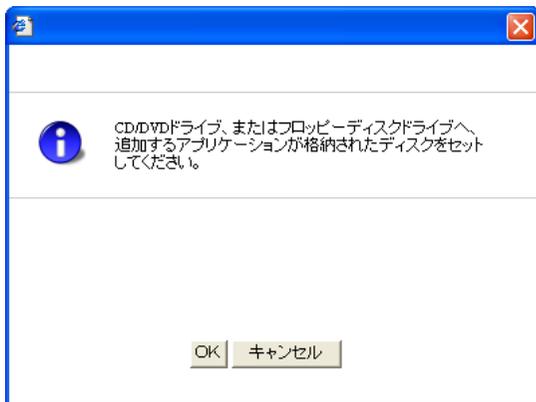
16. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、メッセージが表示されますので、大容量記憶装置に添付されているCD-ROMまたはフロッピーディスクをセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。



17. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されますので、追加するアプリケーションのCD-ROMまたはフロッピーディスクをセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。



18. メッセージに従って「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブから取り出す。

フロッピーディスクがドライブにセットされている場合は、DVDと一緒に取り出しておいてください。

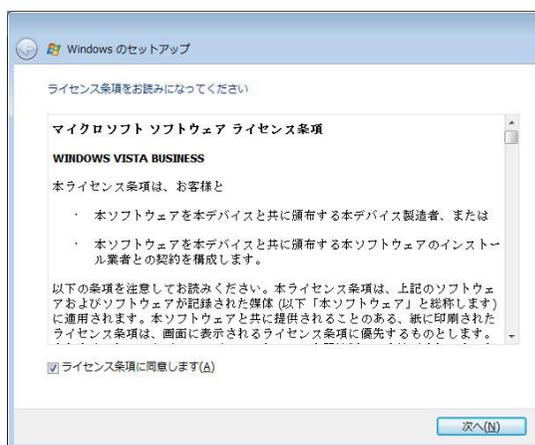
19. Windows Vista 32-bit(x86) Edition DVD-ROMを光ディスクドライブにセットする。

Windows Vista 32-bit(x86) Editionと指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、数回再起動されます。



バックアップDVD-ROM以外のOS DVD-ROMを使用している場合は、プロダクトキーの入力画面が表示されますのでメッセージに従ってプロダクトキーを入力してください。

20. [マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項]が表示されたら、「ライセンス条項に同意します」にチェックをつけ、[次へ]をクリックする。



バックアップDVD-ROM以外のOS DVD-ROMを使用している場合は、[マイクロソフト ソフトウェアライセンス条項]前にプロダクトキーの入力画面が再度表示されますのでメッセージに従ってプロダクトキーを入力してください。

21. [ありがとうございます]が表示されたら、「開始」をクリックする。
22. [セットアップ完了]画面で[OK]をクリックする。
23. 19ページを参照し、デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップを行う。
24. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。
25. 35ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップを行う。
26. 46ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

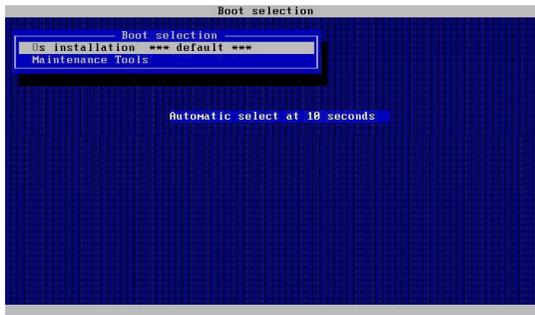
以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

Windows XP Professionalの場合

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。
2. 本装置の光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」DVDをセットする。
3. DVD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。

DVD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

以下のメッセージが表示されたら、「OS installation *** default ***」を選択してください（何もキー入力がない場合でも、自動的に手順4の画面へ進みます）。

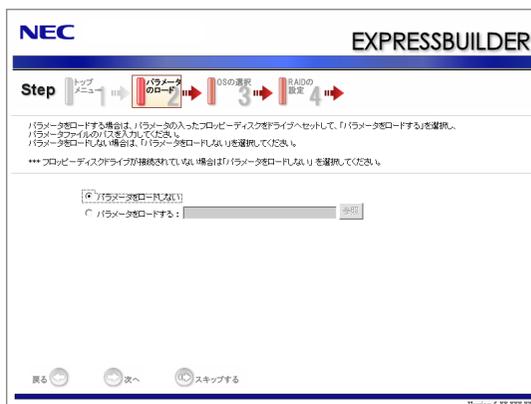


4. [シームレスセットアップを実行する]を選択し、[次へ]をクリックする。



5. パラメータをロードする。

[パラメータのロード]画面が表示されます。



[パラメータファイルを使用しない場合]

「パラメータをロードしない」を選択して、[次へ]をクリックする。



チェック

フロッピーディスクドライブが本体に接続されていない場合、こちらを選択してください。

[パラメータファイルを使用する場合]

「パラメータをロードする」を選択し、パラメータファイルのパスをボックスへ入力する。この後、各ウィザードにてファイルからロードされたパラメータを確認する場合は[次へ]を、確認しないでそのままインストールする場合は[スキップする]をクリックする。



チェック

パラメータファイルのパスおよびファイル名に日本語は使用しないでください。

[次へ]をクリック→手順6へ

[スキップする]をクリック→手順15へ

6. インストールするOSを選択する。

[Windows(32bitエディション)をインストールする]を選択して、[次へ]をクリックしてください。



7. RAIDの設定をする。

[RAIDの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



論理ドライブの作成には同型番の物理ディスクしか使用できません。



8. メディアとパーティションの設定をする。

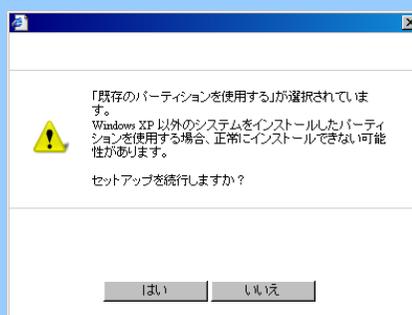
[メディアとパーティションの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



- パーティションサイズについて
 - OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズを指定してください（62ページ参照）。
 - 接続されているハードディスク以上の容量は指定しないでください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「新規で作成する」を選択したとき、ディスクの内容はすべてクリアされますのでご注意ください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション
削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません（62ページ参照）。「Windows システムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、以下のメッセージが表示されます。Windows XP 以外で作成したパーティションは流用できませんので新規に作成しなおしてください。



9. 基本情報の設定をする。

[基本情報の設定]画面が表示されます。ユーザー情報を入力して[次へ]をクリックしてください。

NEC EXPRESSBUILDER

Step 1 2 3 4 5 6

ユーザー情報などの基本設定を入力してください。

コンピュータ名は、15文字以下で設定してください(他のコンピュータ名、ドメイン/ワークグループ名との重複は不可)。
 使用人名/会社名は、30文字以下(半角)では25文字で設定してください。

ユーザー情報		
コンピュータ名	<input type="text"/>	(入力必須)
使用人名	<input type="text"/>	(入力必須)
会社名	<input type="text"/>	
Administratorパスワード	<input type="password"/>	
Administratorパスワードの確認	<input type="password"/>	

戻る 次へ TOPへ デフォルトへ戻す

Version 5.13.0003.02



ヒント

- 「Administratorパスワード」および「Administratorパスワードの確認」に値を設定していない場合でも「??????」が表示されます。
- 日本語入力する場合は、<Alt>+<半角/全角>キーを押してください。

10. ネットワークプロトコルの設定をする。

[ネットワークプロトコルの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



ヒント

カスタム設定での登録順は、LANポートの番号と一致しない場合があります。

NEC EXPRESSBUILDER

Step 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

ネットワークプロトコルの設定を行います。

IPアドレスを指定する場合は、「カスタム設定」を選択し、「詳細設定」ボタンをクリックしてください。
 ネットワークの設定を行う場合、必ず「標準設定」を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

標準設定
 カスタム設定

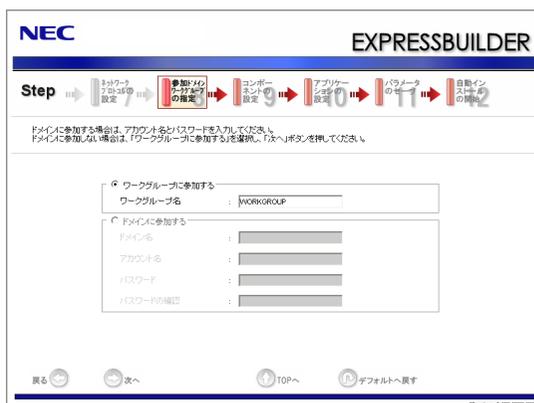
standard independent -- インターネットプロトコル

戻る 次へ TOPへ デフォルトへ戻す

Version 5.13.0003.02

11. 参加ドメイン・ワークグループを指定する。

[参加ドメイン・ワークグループの指定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



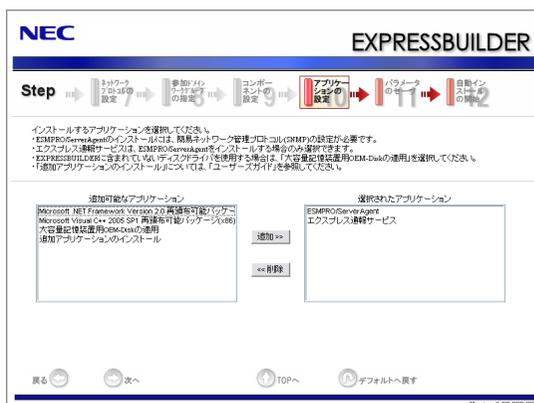
12. コンポーネントの設定をする。

[コンポーネントの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



13. アプリケーションの設定をする。

[アプリケーションの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なアプリケーションを選択して[次へ]をクリックしてください。



14. パラメータをセーブする。

[パラメータのセーブ]画面が表示されます。



[パラメータファイルを保存しない場合]

「パラメータをセーブしない」を選択して、[次へ]をクリックする。



チェック

フロッピーディスクドライブが本体に接続されていない場合、こちらを選択してください。

[パラメータファイルを保存する場合]

「パラメータをセーブする」を選択し、フォーマット済みフロッピーディスクをセットした後、ファイル名をボックスへ入力し、[次へ]をクリックする。



チェック

パラメータファイルのパスおよびファイル名に日本語は使用しないでください。



ヒント

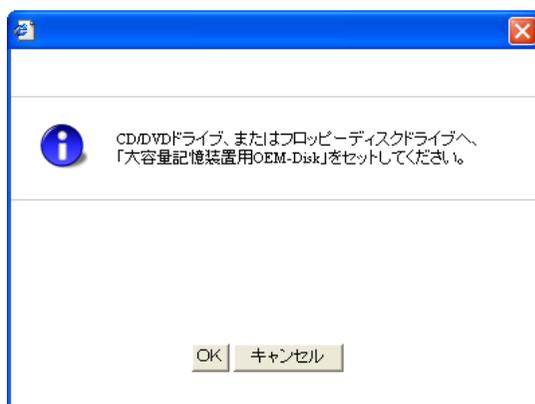
ここで作成したパラメータファイルは、再インストールのときに使用することができます。また、パラメータファイルは「ExpressPicnic」からも作成することができます。

15. 自動インストールの開始画面で[実行する]をクリックする。



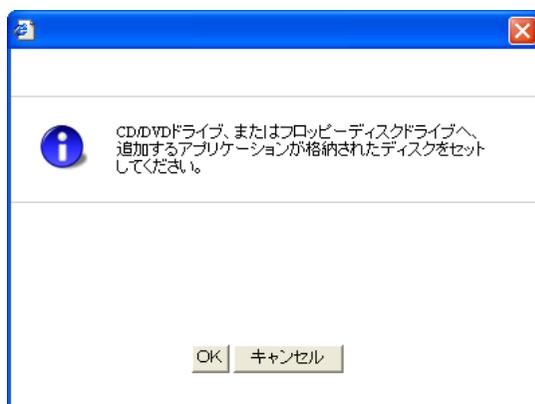
16. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、メッセージが表示されますので、大容量記憶装置に添付されているCD-ROMまたはフロッピーディスクをセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。



17. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されますので、追加するアプリケーションのCD-ROMまたはフロッピーディスクをセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。

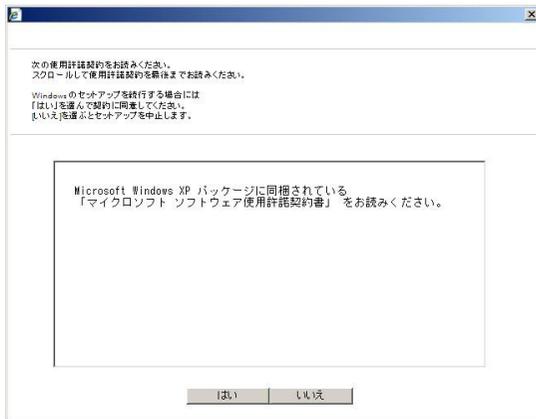


18. メッセージに従って「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブから取り出す。

フロッピーディスクがドライブにセットされている場合は、DVDと一緒に取り出しておいてください。

19. Windows XP Professional CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約] 確認画面が表示されます。



20. 「ソフトウェア使用許諾契約書」の内容をご確認のうえ、同意する場合は、[はい]をクリックする。

同意しない場合は、[いいえ] をクリックしてください。

Windows XP と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、数回再起動されます。

再起動後は、自動的にシステムにログオンします。

21. [セットアップ完了]画面で[OK]をクリックする。

22. 19ページを参照し、デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップを行う。

23. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

35ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップを行う。

24. 必要に応じて、「ステップバイステップインタラクティブ (SBSI)」をインストールする。

SBSIはWindows XPを学習するためのトレーニングソフトウェアです。アニメーションと音声を使用し、簡単で使いやすい学習環境が用意されています。

SBSIは、以下の方法でインストールできます。

(1) SBSI CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。

(2) 「¥setup.exe」を実行する。

メッセージに従ってインストールを行ってください。

(3) EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professionalインストールレーションサプリメントガイド」を参照し、システムのアップデートを行う。

25. 46ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

応用セットアップ

システム的环境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合

最新のRAIDコントローラなど、本装置に添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに対応していない大容量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどをする場合は、次の手順でセットアップしてください。



- BTO（工場組み込み出荷）により、OS組み込み出荷された状態からセットアップを開始する場合には、本操作を行う必要はありません。
- シームレスセットアップに対応しているボードの一覧については「EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード」（13ページ）を参照してください。

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備する。



本書の内容と大容量記憶装置コントローラの説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの説明書を優先してください。

2. RAIDコントローラの場合は、コントローラの説明書に従ってRAIDシステムの設定を行う。
RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3へ進んでください。
3. 「EXPRESSBUILDER」DVDからシステムを起動させる。
4. [EXPRESSBUILDERにドライバをロードする]を選択し、[次へ]をクリックする。
「ドライバのロード」画面で大容量記憶装置用OEM-DISKをセットして [実行する] をクリックする。



このオプションを選択することで、CD-ROMまたはフロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

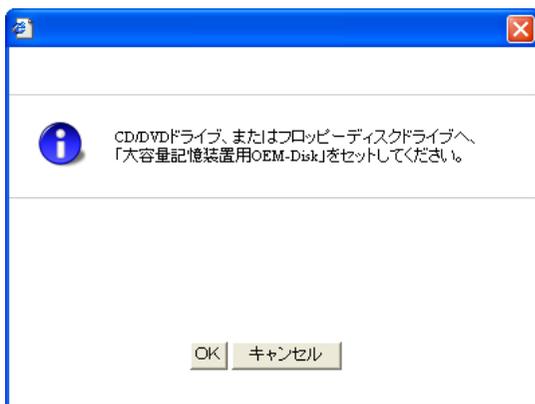
5. 以下の設定でシームレスセットアップを実行する。
 - － RAIDの設定画面が表示された場合は、[論理ディスクの作成をスキップする] をチェックする
 - － アプリケーションの設定で[大容量記憶装置用OEM-Diskの適用]を追加する



このオプションを選択することで、フロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

6. インストールするOSが Windows XP の場合、シームレスセットアップの途中で [大容量記憶装置用ドライバ] をコピーする。

大容量記憶装置コントローラに添付されているCD-ROMまたはフロッピーディスクをセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。



マニュアルセットアップ

- **Windows Vista 64-bit(x64) Edition の場合**

オペレーティングシステムのインストールは、マニュアルセットアップを使用します。マニュアルセットアップでWindows Vista Business をインストールする方法については、EXPRESSBUILDER に格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Vista Business インストールサブリメントガイド」を参照してください。また、本体標準のRAIDコントローラ(LSI Embedded MegaRAID™)+SATA接続の光ディスクドライブを使用する場合は、あらかじめEXPRESSBUILDERから、「OEM-Disk」を作成しておいてください。

- **Windows Vista 32-bit(x86) Edition の場合**

本装置へのオペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。

シームレスセットアップを使わずにWindows をインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Vista Business インストールサブリメントガイド」を参照してください。また、本体標準のRAIDコントローラ(LSI Embedded MegaRAID™)+SATA接続の光ディスクドライブを使用する場合は、あらかじめEXPRESSBUILDERから、「OEM-Disk」を作成しておいてください。

- **Windows XP x64 Editionの場合**

オペレーティングシステムのインストールは、マニュアルセットアップを使用します。マニュアルセットアップでWindows XP x64 Editionをインストールする方法については、EXPRESSBUILDER に格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professional x64 Editionインストールサブリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、「OEM-Disk」を作成しておいてください。

● Windows XPの場合

本装置へのオペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。

シームレスセットアップを使わずにWindows をインストールする方法については、EXPRESSBUILDER に格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professionalインストールレーションサブリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、「OEM-Disk」を作成しておいてください。



OEM-Diskとは？

「マニュアルセットアップ」では「OEM-Disk」が必要です。OEM-Diskには、各OSごとに必要となるRAIDコントローラやSCSIコントローラのドライバなどが含まれています。

マニュアルセットアップをはじめる前に、各OSのインストールレーションサブリメントガイドを参照し、OEM-Diskを作成してください。

<OEM-Disk 名称>

- Windows Vista 64-bit(x64) Edition の場合：
「Windows Vista x64 Edition OEM-Disk for EXPRESSBUILDER」
- Windows Vista 32-bit(x86) Edition の場合：
「Windows Vista OEM-Disk for EXPRESSBUILDER」
- Windows XP x64 Edition の場合：
「Windows XP x64 Edition OEM-Disk for EXPRESSBUILDER」
- Windows XP の場合：
「Windows XP OEM-Disk for EXPRESSBUILDER」



オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の説明書も併せて参照してください。

論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順

再セットアップをはじめる前に、万が一の場合に備えて必ずデータのバックアップを行ってください。

再セットアップ手順

1. 本書および「インストールレーションサブリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを開始する。
2. 次のメッセージが表示されたら、OSをセットアップしたいパーティションを選択する。

次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。

上下の方向キーを使って、一覧からパーティションを選択してください。



システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字はセットアップ完了後は修正できません。この画面で正しいドライブ文字が割り当てられていることを確認してからセットアップを続行してください。

3. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを続行する。

以上で完了です。



セットアップ完了後、再セットアップ前とドライブ文字が異なる場合があります。ドライブ文字の修正が必要な場合は次項の「ドライブ文字の修正手順」に従ってドライブ文字を変更してください。

ドライブ文字の修正手順

以下の手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できません。ご注意ください。

1. スタートメニューから[マイコンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択して[コンピュータの管理]を起動する。
2. 左側のウィンドウの中から、[ディスクの管理]を選択する。
3. ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックし、[ドライブ文字とパスの変更]を選択する。
4. [変更]をクリックする。
5. [次のドライブ文字を割り当てる]をクリックし、割り当てたいドライブ文字を選択する。
6. [OK]をクリックする。
7. 以下の確認メッセージが表示されたら、[はい]をクリックする。

ボリュームのドライブ文字を変更すると、プログラムが動作しないことがあります。このドライブ文字を変更しますか？

8. [コンピュータの管理]を終了する。

以上で完了です。